

2024 年度 事業報告書

学校法人 白梅学園

目 次

[I] 2024 年度理事長報告	1
[II] 学校法人の概要	2
1. 基本情報	2
2. 建学の精神	2
3. 学校法人の沿革	3
4. 入学定員・学生・生徒・園児数	4
5. 収容定員充足率	4
6. 組織図	5
[III] 2024 年度各部門主要事業報告／中期的な計画（1 年目）の進捗・達成状況	6
1. 学園・法人事務局	7
2. 白梅学園大学・短期大学	14
3. 白梅学園高等学校	25
4. 白梅学園清修中学校・中高一貫部	28
5. 白梅学園大学附属白梅幼稚園	32
[IV] 財務の概要	42
1. 決算の概要	42
2. 収支状況	42
3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策	47
4. 財務諸表	48
5. 財務状況の推移等	52
6. 主な財務比率比較	55
[VI] データ集	58
1. 役員の概要	58
2. 評議員の概要	60
3. 2024 年度理事会・評議員会の開催状況	62
4. 教職員の概要（専任教職員数）	62
5. 2024 年度進路状況	63

[I] 2024 年度理事長報告

【学園創立 80 周年記念事業】

学園創立 80 周年記念事業募金活動については、概ね順調に進捗した。大変ありがたいことに、2024 年度に大学・短期大学同窓会から 5000 万円、高等学校同窓会から 300 万円の御寄付をいただいた。これまでの寄付総額は約 1.2 億円となり、目標金額 2 億円の 6 割に達した。

大短新棟建設プロジェクトについては、中長期の財政見通しや大学子ども学部の改組計画などを踏まえ、見直しを行った。既存建物の改修を中心とした検討を行い、2024 年度は「大学・短大校舎のトイレ改修」と「第一大体育館へのエアコン設置」を実施した。

学園史（補遺版）については、今後の組織体制も含め、抜本的に見直すこととした。

【白梅学園グランドデザインの策定】

2023 年度に設置した「白梅学園グランドデザイン策定会議」及びその各分科会で、引き続き白梅学園グランドデザイン策定に向けて検討を行った。

2024 年 7 月の策定会議にて各分科会からの中間報告を実施した。しかしながら財政状況の急激な変化（悪化）を受けて、当初の構想を大幅に見直さざるを得ない状況が生じたため、2025 年 3 月を予定していた最終報告には至らなかった。

2025 年度の白梅学園グランドデザイン策定に向けて、議論を加速させていく考えである。

【ガバナンス改革】

2025 年 4 月 1 日施行の改正私立学校法への対応として、寄附行為変更や学校法人白梅学園内部統制システムに関する基本方針の策定、理事・評議員選任機関運営規程の整備などの準備を行った。2025 年度は施行された改正私立学校法に則り、ガバナンス改革を順次進めていく予定である。

【中長期財政再建策の検討】

財政見通し及び資金計画を随時更新し、常勤理事会や夏季集中討議において、白梅学園が持続的に存続・発展するために必要な施策について、継続的に論議した。本学園を取り巻く情勢の厳しさは変わらず、2024 年度の募集活動においては、清修中学校を除く各学校で入学定員に満たない結果となった。2025 年度は引き続き、募集の目標・施策を明確にし、常勤理事会で取り組みの進捗を適宜確認しながら入学者数の増加に取り組むとともに、さらなる支出削減方策について検討を進めていく。

【教育・研究の向上】

教育研究水準の向上に資するため、大学にてにおいて機関別認証評価を受審し、2025 年 3 月に「適合」の判定を受けた。また、子ども学のアップデートを構想する子ども学部改組について検討を進め、構想の具体化を推進した。

中高では質の高い授業を目指し、生徒間の対話と表現のある授業づくりを継続している。行事や課外活動にも熱心に取り組み、全国大会やコンテストにおいて一定の成果を収めた。

（理事長 井原 徹）

[Ⅱ]学校法人の概要

1. 基本情報

(2024年4月1日付)

(1)法人の名称

学校法人白梅学園(大臣認可年月日 1953(昭和28)年12月15日)

(2)主たる事務所の住所

〒187-8570 東京都小平市小川町1丁目830番地

(3)設置する学校・学部・学科

①白梅学園大学

大学院 子ども学研究科

子ども学部 子ども学科

発達臨床学科(※1)

家族・地域支援学科

子ども心理学科(※2)

教育学科(※2)

②白梅学園短期大学

保育科

③白梅学園高等学校

④白梅学園清修中学校

⑤白梅学園大学附属白梅幼稚園

※1：2024年4月募集停止 ※2：2024年4月新設

2. 建学の精神

「人間を愛し、人間の価値を最高度を実現しようとするヒューマンイズムの理念」

本学園は、1942年、社会教育協会を立ち上げた小松謙助が、学園の初代学園長である穂積重遠とともに、現在の東京都文京区に設立した東京家庭学園に始まった。戦火に見舞われながらも今日まで教育活動を継続し、現在は大学、短期大学、高校、中学、幼稚園からなる総合的な学校法人となった。

本学園の建学の精神は「人間を愛し、人間の価値を最高度を実現しようとするヒューマンイズムの理念」にある。科学性・社会性・芸術性の3つの基礎の上にたって個人の価値を高めるとともに、各分野を通じて広く社会の幸福に建設的な社会人の育成を目指している。

3. 学校法人の沿革

1942(昭和17)年3月	東京家庭学園設立
1950(昭和25)年3月	白梅幼稚園設置
1953(昭和28)年4月	白梅保母学園を創立、厚生省より保母養成機関の指定
12月	学校法人白梅学園設置
1955(昭和30)年3月	白梅保母学園を白梅学園保育科と名称変更
1957(昭和32)年4月	白梅学園短期大学設置 保育科第1部、同第2部開設
1961(昭和36)年4月	心理技術科第1部、同第2部開設(平成元年 心理学科と名称変更)
	専攻科保育専攻第1部、同第2部開設
1964(昭和39)年4月	白梅学園高等学校設置
1966(昭和41)年4月	短期大学教養科開設
1987(昭和62)年4月	保育科第2部、心理技術科第2部、専攻科保育専攻第2部募集停止
	専攻科保育専攻第1部開設
1989(平成元)年4月	専攻科福祉専攻(介護福祉士養成施設)開設
1992(平成4)年4月	専攻科福祉専攻、学位授与の認定
1993(平成5)年4月	専攻科保育専攻、学位授与の認定
	保育科第2部、心理技術科第2部、専攻科保育専攻第2部の廃止
	保育科第1部を保育科、心理学科第1部を心理学科、専攻科保育専攻第1部を専攻科保育専攻と名称変更
1998(平成10)年3月	専攻科保育専攻1年課程廃止
4月	専攻科保育専攻2年課程開設
	福祉援助学科(介護福祉士養成施設)開設
2005(平成17)年4月	白梅学園大学子ども学部子ども学科設置
	短期大学教養科、専攻科保育専攻募集停止
2006(平成18)年3月	短期大学教養科、専攻科保育専攻廃止
4月	白梅学園清修中学校設置
2008(平成20)年4月	白梅学園大学大学院子ども学研究科子ども学専攻修士課程設置
2009(平成21)年3月	専攻科福祉専攻廃止
4月	白梅学園大学子ども学部発達臨床学科開設
	短期大学心理学科募集停止
2010(平成22)年4月	白梅学園大学子ども学部家族・地域支援学科開設
	白梅学園大学大学院子ども学研究科子ども学専攻博士課程開設
	白梅学園短期大学福祉援助学科募集停止
2011(平成23)年3月	白梅学園短期大学心理学科廃止
2012(平成24)年3月	白梅学園短期大学福祉援助学科廃止
2023(令和5)年4月	白梅幼稚園を白梅学園大学附属白梅幼稚園と名称変更
2024(令和6)年4月	白梅学園大学子ども学部子ども心理学科、教育学科開設
	白梅学園大学子ども学部発達臨床学科募集停止

4. 入学定員・学生・生徒・園児数

(2024年5月1日付)

白梅学園大学大学院

研究科・専攻科名	入学定員	収容定員	1年	2年	3年	計
子ども学研究科 修士課程	5	10	3	5		8
子ども学専攻 博士課程	2	6	3	0	5	8
合 計	7	16	6	5	5	16

白梅学園大学

学科名	入学定員	編入学定員	収容定員	1年	2年	3年	4年	計
子ども学部								
子ども学科	120	6	492	96	137	140	136	509
発達臨床学科(※1)	—	10	170	—	50	45	50	145
家族・地域支援学科	40	2	164	8	25	28	47	108
子ども心理学科(※2)	40	2	164	33	—	—	—	33
教育学科(※2)	50	2	204	24	—	—	—	24
合 計	250	22	1,194	161	212	213	233	819

白梅学園短期大学

学科科名	入学定員	収容定員	1年	2年	計
保育科	80	160	68	82	150
合 計	80	160	68	82	150

白梅学園高等学校

	入学定員	収容定員	1年	2年	3年	計
全日制課程普通科 (含 清修中高一貫部)	340	1,020	281	258	296	835
合 計	340	1,020	281	258	296	835

白梅学園清修中学校

	入学定員	収容定員	1年	2年	3年	計
白梅学園清修中学校	60	180	30	44	55	129
合 計	60	180	30	44	55	129

白梅学園大学附属白梅幼稚園

	入学定員	収容定員	3歳	4歳	5歳	計
白梅学園大学附属白梅幼稚園	70	210	40	46	57	143
合 計	70	210	40	46	57	143

※1：2024年4月に募集停止

※2：2024年4月に新設

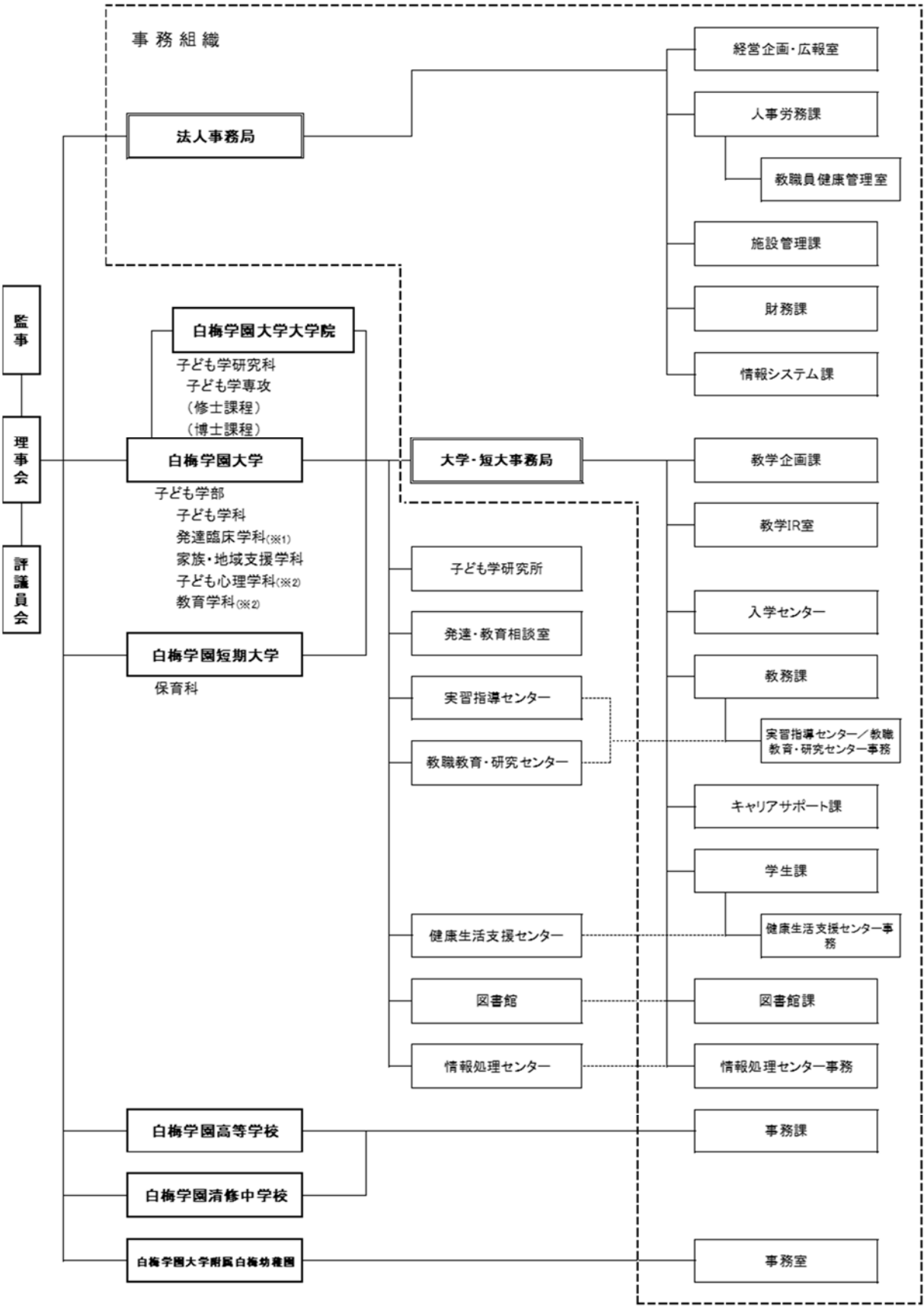
5. 収容定員充足率

(毎年度5月1日付)

学校名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
白梅学園大学大学院	65%	67%	67%	37%	44%
白梅学園大学	102%	102%	100%	96%	83%
白梅学園短期大学	104%	103%	95%	89%	86%
白梅学園高等学校	77%	85%	86%	85%	82%
白梅学園清修中学校	37%	48%	68%	78%	72%
白梅学園大学附属白梅幼稚園	78%	73%	74%	73%	68%

6. 組織図

(2024年 4 月 1 日付)



※1: 2024年4月に募集停止
※2: 2024年4月に新設

【Ⅲ】2024 年度各部門主要事業報告／中期的な計画（1 年目）の進捗・達成状況

2024 年度事業計画は下記の 17 項目で策定した。この項目に基づき、部門別に関連する項目の主要事業について報告する。

【2024 年度事業計画 策定項目】

- [1]教育活動の推進
- [2]研究活動の推進
- [3]学生・生徒・園児支援の推進
- [4]学生・生徒・園児の確保
- [5]学園広報の推進
- [6]国際交流の推進
- [7]生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進
- [8]卒業生との連携等の推進
- [9]働き方・仕事の仕方の見直し
- [10]建学の精神の高揚
- [11]令和充実5ヵ年計画・80 周年記念事業
- [12]大学・短期大学新棟・施設中長期整備計画
- [13]財政再建計画
- [14]ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底
- [15]管理運営（施設改修・更新・労務他）
- [16]情報化教育/ICT
- [17]その他

1. 学園・法人事務局

2024年度は、第2期中期実行計画の初年度であり、改正私学法施行に向けた準備の最終年度である。財政が厳しい状況にあることを踏まえ、白梅学園が持続的に存続・発展するために、学園財政再建のための方策を模索するとともに、「白梅学園のグランドデザイン」策定に向けた検討を継続した。

以下、主な施策の進捗について報告する。

(1) 学園グランドデザイン

白梅学園グランドデザイン策定に向けて、経営グランドデザイン分科会及び部門ごとの教学グランドデザイン分科会からの中間報告を行った。

全部門における入学者数の減少により、財政面での当初の計画を大幅に見直さざるを得ない状況となり、2025年3月に予定していた5つの分科会から策定会議への最終報告には至らなかった。

(2) 学園創立80周年記念事業

①教育・研究環境の整備

大学・短期大学新棟建設を含む教育・研究環境の整備については、現下の学園の財政状況を踏まえて2024年2月の理事会で承認された方針に基づき、在学生の学習環境の改善とともに、学生募集への影響も考慮して、既存棟の改修を優先して取り組んだ。2024年度は主に大学・短期大学校舎のトイレ大規模改修と、第一大体育館へのエアコン設置を行った。

②学園創立80周年記念事業募金

卒業生や在校生、保護者、教職員（OG・OBを含む）などからの、2024年度の寄付金額は約530万円である。さらに大学・短大同窓会からの寄付金5,000万円を加えて、2024年度末までの学園創立80周年記念事業募金の累計は約1.2億円となった。

(3) 私学法改正対応

2025年4月の改正私学法施行に向けて、寄附行為変更や内部統制システムの基本方針策定など必要な対応を行った。また、2025年6月に予定している理事・監事・評議員の改選に備えて、改正私学法に基づいた手続きを行うべく、規程や体制を整備した。

(4) その他の施策、次年度に向けた課題

①学園財政再建のための方策の検討

財政見直し及び資金計画を随時更新し、常勤理事会や夏季集中討議において、白梅学園が持続的に存続・発展するために必要な2025年度以降の入学目標値や取りうる対策について論議を行った。

各学校の2024年度入学・入園者数及び2025年度入学・入園者数見込み数から大きな減収となることを踏まえ、2025年度の予算をマイナス予算としないために、常勤理事会での議論を経て、2025年度に実施する支出削減策を決定した。

さらに2025年度は、年度当初から各校の必達募集目標を確認するとともに、実施することが可能な追加の支出削減策についても検討することとした。

②事務体制・機能の強化

業務確認制度の概要、業務確認シート、自己申告書、業務確認マニュアル案を作成した。2025年度中に試行する。

管理職と事務職員のコミュニケーションの強化を図る観点から、事務職員と課長との面談を実施した。面談結果の概要を各課長より事務局長に報告した。労働課題の集約までには至らなかったが、働きやすい職場を目指し、子の看護等休暇の見直しを実施し、就業規則の改定を行った。

(法人事務局 事務局長 舟橋 徹)

【主要な事業の報告】

(学園・法人事務局)

【年間評価（成果）】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

5. 学園広報の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 情報の積極的な発信	・ 広報媒体の有効活用と機能の充実のため、ホームページを充実させ機能強化を図る。新しい広報媒体（SNS 等）を積極的に活用する。	・ WEB 閲覧状況の分析・検証を実施する。 ・ 各部門の取り組み、近況報告を 1 つにまとめ、一体感を持って地域社会に発信する。	B	(1) 上半期に高校、下半期の幼稚園のホームページをリニューアルし、すべての部門にて新しいホームページへの切り替えが完了した。 (2) 古いサーバで運用している大短図書館、大短情報処理センターのホームページについては、2025 年度に改修するための検討を開始した。 (3) SNS の発信について、各部門でアカウントを取得し稼働し始め、新しい広報媒体として活用した。 (4) 募金ホームページについては、80 周年記念棟建築時期の見直しに伴い、掲載内容を見直した。2025 年 4 月に修正した内容を公開予定。 (5) 大短ホームページ改修プロジェクトチームでは、2025 年 9 月を公開目標に検討を重ねた。主にトップページをリニューアルする計画である。
9. 働き方・仕事の仕方の見直し				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 事務体制・機能の強化	① 1 期に取り組んだ組織の見直しを継続し、誰もが活躍できる体制を構築する。特に業務に優先順位をつけて整理することによって時間を創出し、横断的に業務を行う余力のある組織を目指す。 ② 事務職員のさらなる質的向上を目指し、評価と改善の見える化を行い、情報収集、発信・提案ができる職員の育成を図る。 ③ 職員のモチベーションを向上させてより良い業務を行うために、働きやすい職場を目指し、労務課題を整理する。	① 仕事評価基準の策定 ② 事務職員のキャリア形成支援 ③ 労働課題の棚卸	B	(1) 業務確認（これまで「仕事評価」と言ってきたもの）制度の概要、業務確認シート、自己申告書、業務確認マニュアル案を作成した。 (2) 管理職と事務職員のコミュニケーションの強化を図る観点から、事務職員と課長との面談を実施した。面談結果の概要を各課長より事務局長に報告した。 (3) 労務課題の整理までには至らなかったが、働きやすい職場を目指し、子の看護等休暇の見直しを実施し、就業規則の改定を行った。

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

11. 令和充実5ヵ年計画・80周年記念事業				
施策名	中期計画の全体像	2024年度(中期計画1年目)の達成目標	年間評価	2024年度(中期計画1年目)の達成状況(総括)
(1) 白梅学園創立80周年記念事業	①白梅学園創立80周年記念事業について、記念誌(学園史(補遺版))の編纂、寄付金(目標金額2億円)の募集、その他事業を学園全体で進める。新棟関連工事が完了後、記念式典を実施する。 ②建学の精神について、学園史編纂の中で改めて見つめなおし、全教職員で深め実践できる方法を模索する。新入職者への建学の精神の伝承等についても取り組む。	・白梅学園創立80周年記念事業募金の継続実施 ・2024年度は卒業生や教職員OG・OB、企業、地域の方々等に対して、本格的な募金活動を行う。 ・編纂史の内容・構成を固め、2025年度に予算計上する。	A	(1)新学長就任に伴い、趣意書・WEBページの更新、再周知を行った。 (2)募金金額は、120,411,639円となり、目標額(2億円)の6割に達した。 (3)80周年記念棟建築計画の見直しに伴い、既存棟の改修(トイレ改修)を優先して実施した。 (4)学園史編纂については、今後の組織体制も含め、抜本的に見直しすることとした。
(2) 白梅学園ブランドデザインの策定	①経営及び教学の各ブランドデザイン策定分科会にて検討した教学・経営ブランドデザインの統合・調整を図り、白梅学園ブランドデザインを策定する。策定後は、ホームページ等にて学内のみならず広く公表する。 ②長期にわたって信頼を得られるとともに、学園全体で一体感を感じられる学園ブランドイメージを育て、その浸透を図る。継続的な発信の仕組みを作るとともに、定着を図る。	・5つの策定分科会の開催。各分科会間では随時情報共有 ・5つの策定分科会から策定会議へ中間報告	B	(1)7月に幼稚園を除く4つの策定分科会から策定会議へ中間報告を実施した。 (2)全部門入学者数の減少により、財政面での当初の計画を大幅に見直さざるを得ない状況となったため、2025年3月に予定していた5つの分科会からの策定会議への最終報告には至らなかった。 (3)幼稚園については、教学・経営協議会を設け、入園者数の見通しを基にした財政試算を示し、部門別では教育収支差額が大きな支出超過となる課題についての協議を開始した。 (4)大学・短大については、2026年度に短大の入学定員を減じる予定であることを踏まえ、大学と短大を合わせた収支バランスについて、12月の教学・経営協議会に試算を報告し、検討を開始した。 (5)各部門への収支バランスを早急に提示して新たな定員の設定も含め、議論を加速させていく予定である。

【年間評価（成果）】S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

12. 大学短大新棟・施設中長期整備計画				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 大学・短期大学新棟の建築 (2024 年度工事着工、2026 年度供用開始予定)	①大学・短期大学新棟については、学園の財政状況を踏まえつつ、施設のあり方について検討を重ね、2026 年度の供用開始に向けて着実に設計・工事を推進する。 ②既存棟の部分修繕、A・B 棟の解体、中庭の再整備を 2027 年度中に完了し、学生・生徒・園児にとって居心地の良い場所を確保する。合わせて高校・中学・幼稚園の教育環境整備も実施する。	・新棟及び既存棟の部分修繕、中庭について設計を完了。新棟建築に着工 ・明豊ファシリティワークスとの契約更新	-	(1) 本学園の直近の財政状況を踏まえ、2024 年 2 月の理事会での了承を経て、これまでの新棟建設計画を変更し、2025 年度は以下の既存建物の改修を行った。これらの改修工事は 80 周年記念事業の一環として行い、募金を含む積立金から支出した。 ①大学短大校舎のトイレ改修 ②第一大体育館へのエアコン設置 (2) 以下の改修については 2025 年度中に検討し、順次実施することとした。 ①A 棟外壁、屋上塗装 ②I 棟 3F 食堂の改修（コモンズ化） ③高中幼のトイレ改修 ④高中幼の屋根付き駐輪場
13. 財政再建計画				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 学園の財政構造の特徴を踏まえ、支出構造の見直しを図る。	・教育活動資金収支差額の安定確保（収支差額比率 10%超）、及び基本金組入前当年度収支差額の黒字基調維持により、安定的な財政基盤が確立する。 ・大短新棟建築以降においても、将来に向けた着実な施設設備積立が実現する。 ・恒常的な経費削減策を実施するとともに、効率的・有効的な経費配分を行い、収支バランスを確保する。	・1 年目：財務面からの対応策案を検討し、白梅学園グランドデザイン策定会議等における検討に供する。	B	(1) 財政見直し及び資金計画を随時更新し、常勤理事会や夏季集中討議において、白梅学園が持続的に存続・発展するために必要な 2025 年度以降の入学目標値や取りうる対策について論議を行った。 (2) 各学校の 2025 年度入学・入園者数見込み数から大きな減収となることを踏まえ、2025 年度の予算をマイナス予算としないために、常勤理事会での議論を経て、2025 年度に実施する支出削減策を決定した。さらに実施することが可能な追加の支出削減策については、2025 年度中に検討し、2026 年度から実施することとした。 (3) 財務面からの対応策案を白梅学園グランドデザイン策定会議等における検討に供するまでには至らなかった。

(学園・法人事務局)

【年間評価（成果）】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

(2) 学生納付金等収入の確保に向け、教学と連携して学生数等の増加策を検討する。	・学生納付金等収入の安定確保に向け、教学と連携した学生数等の増加策を実施し、収容定員充足を維持する。	・1年目：課題の整理及び対応案を検討する。	A (1)年間を通し、各学校の2024年度の在籍者数及び2025年度の入学・入園者数見込みに応じた収支試算を共有し、対応策等の検討を行った。 (2)2026年度に短大の入学定員を減じることを踏まえ、大学と短大を合わせた収支バランスについて、12月の教学・経営協議会に試算を報告し、検討を開始した。 (3)2025年度以降の財政についていくつかの条件で試算したシミュレーションを基に、白梅学園が持続的に存続・発展するために必要な学生数について検討する。
(3) 収入の多元化を図り、資産運用とともに、補助金、寄付金等獲得の取組を強化する。	・補助金について、可能性のある経常的な補助金の安定的な確保に加え、特別補助、加算額等を確実に獲得する。 ・寄付金などの外部資金について、多様な収入源を確保するための方策を実施する。 ・資産運用について、学園の資金を安全かつ有利に運用し、その差益により教育研究の発展に資する。	・1年目：課題の整理及び対応案を検討する。	S (1)経常的な補助金、寄付金等の獲得に取り組んだ。 (2)大学の新学科設置計画に関連して、国の「大学・高専成長分野転換支援基金助成金」に申請し、採択された。 (3)清修中高一貫部にて、鉄道模型デザイン班の活動経費獲得のため、2025年4月から開始予定のクラウドファンディングに向けた準備作業を進めた。 (4)寄付金収入を活用して、学園の活性化に資する教職員の活動等を支援する仕組みを創設した。 (5)資産運用については、今後の資金計画を踏まえ積極的な資産運用は行わないこととした。 (6)現段階において、新たな補助金申請の予定はないが、多様化する補助金の情報を着実にを行い、法人事務局と各部門で連携しながら、可能性のある補助金は確実に獲得していくことを目指す。
(4) 各部門の自立的運営を図るため、各部門における財政上及びその他の必要な対応を検討・実施する。	・各部門ごとの自立的運営について、財政面におけるガイドラインや各種基準をまとめる。 ・基準に満たない場合において、必要な対策を検討し、実施する。	・1年目：自立的運営に関してガイドライン及び各種基準の制定。	B (1)幼稚園については、入園者数の見通しを基にした財政試算を示し、部門別では教育収支差額が大きな支出超過となる課題についての協議を開始した。 (2)2026年度に短大の入学定員を減じることを踏まえ、大学と短大を合わせた収支バランスについて、12月の教学・経営協議会に試算を報告し、検討を開始した。 (3)中高についてはまだ具体的な協議に入れていない。

【年間評価（成果）】S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

(5) 財政状況の推移に応じて、部門・組織の見直しを行う基準等を検討する。	- 各部門の財政状況の推移に応じて、部門・組織の見直しを行うための各種基準をまとめる。 - 収容定員未充足にともなう学園財政への影響に応じて、各部門や組織のあり方等について検討を行い、必要な対策を実施する。	・1年目：各種基準の検討と制定	C	(1) 目下の財政状況に対する対応を優先しており、基準の検討を十分に行っていない。 (2) 11月の日本私立学校振興・共済事業団による経営相談において、各部門の収支が均衡する学生等数（損益分岐点分析）について助言を受け、今後の対応の参考とした。 (3) 各学校の2025年度の入学・入園見込数を基に、2026年度の目標値を具体的に設定し、下回った場合には更なる支出削減を行うことについて常勤理事会での論議を経て具体化する。
---------------------------------------	--	-----------------	---	--

14. ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底

施策名	中期計画の全体像	2024年度(中期計画1年目)の達成目標	年間評価	2024年度(中期計画1年目)の達成状況(総括)
(1) 私立学校法改正も踏まえたガバナンス改善・強化	①2025年度施行予定の改正私学法の趣旨である「執行と監視・監督の役割の明確化・分離」「建設的な協働と相互けん制」への対応として寄附行為を改定し、理事・理事会、監事及び評議員・評議員会の権限分配を整理する。 ②改正私学法、及び関連の法令に基づき内部統制システムを整備する。 ③「白梅学園大学・白梅学園短期大学ガバナンス・コード」については、毎年度順守状況を公開するとともに、改正私学法の内容も踏まえて、3か年ごとに内容を見直す。	- 改正私学法への対応として、役員・評議員の任期延長を含む寄附行為の改定を行う。 - 改正私学法の規定に基づき内部統制システム整備のために必要な体制整備を行う。	A	(1) 2024年5月の評議員会にて改正私学法に対応した寄附行為案について諮問し、6月の理事会にて決議した。寄附行為変更の申請については、12月19日付で文部科学省から認可された。 (2) 「内部統制システムに関する基本方針」については2025年3月の理事会にて決議した。 (3) 2025年6月の役員・評議員の改選に向けて、2024年度中に規程の整備や、理事・評議員選任機関の構成員の選任などを行った。

15. 管理運営（施設改修・更新・労務他）

施策名	中期計画の全体像	2024年度(中期計画1年目)の達成目標	年間評価	2024年度(中期計画1年目)の達成状況(総括)
(1) 既存校舎の長寿命化のための維持管理及び建て替え計画	①既存建物の長寿命化のため、修繕計画を見直す。 ②建て替え時期の見直しやコンパクト化など、既存建物の建て替え計画の見直しを行う。 ③インフラ設備の更新計画を立案する。 ④上記計画に基づき、修繕及び施設更新を実施する。	①修繕計画を見直し ②既存建物の建て替え計画を見直し ③インフラ設備の更新計画立案。	-	(1) 修繕計画・建て替え計画・インフラ更新計画の見直しについては、学園の財政状況が大きく変わったこと、新棟建築計画が変更となったことを踏まえて、2025年度に延期した。 (2) 以下の既存建物の改修・修繕を実施した。 ①大学・短大校舎のトイレ改修：3月完工 ②K棟屋上防水工事：3月完工 ③I棟消防設備更新：2月完工 ④第一大体育館空調機設置工事：3月完工

【年間評価（成果）】S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

16. 情報化教育/ICT				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 既存ネットワークインフラ/サーバリプレイス	・学園ネットワークインフラ高速化整備：学外接続回線及び棟間接続回線の通信速度 10G 実現、末端端末レベルでのギガビット通信実現を目指す	・ネットワーク整備フェーズ 1 の有線 LAN 環境の再整備及びサーバ環境再整備	A	(1) 白梅学園高校、清修中高一貫部、幼稚園のネットワーク再整備は有線・無線環境ともに全て完了した。 (2) 学園ネットワークサービス拡充として eduroam(大学などの教育研究機関が相互に無線 LAN を利用できるようにするサービス) に加入し運用を開始した。
(2) 統合認証システム整備 グループウェア・ワークフロー等整備	・学園全体の DX 化を段階的に進め、教職員の利便性向上と円滑な学園業務の遂行・情報共有を目的にグループウェアとワークフローシステムの整備を進め、教職員の利用用途拡大を図る。合わせて各種サービスのセキュリティ強化を図る。	・2024 年 4 月より統合認証システム(複数のサービスを 1 つのアカウントで利用可能とする仕組み)の利用開始予定 ・統合認証システムにより、統合可能なサービスを一元化(対象：教職員、大短学生→学生用ライセンス追加) ・コラボフロー(電子申請・承認システム)新規申請書類追加	C	(1) 統合認証システムを導入し、利用を開始した。 (2) コラボフロー利用環境の拡充、利用可能な申請書の追加整備は次年度へ持ち越し。
(3) 教職員端末リプレイス	・多様化する学園業務に対応するため学園貸与端末のノート型パソコンへのリプレイスを進め、学園内外問わず業務を行うことができるよう整備を進める。	・高校、清修、幼稚園教員の端末入替を 2024 年度内に完了する。	B	(1) 清修中高一貫部、幼稚園教員については耐用年数を経過した業務用 PC の入れ替えを行い、利用説明会まで実施完了した。 (2) 白梅学園高校の端末リプレイスは高校側と調整し、2025 年 6 月に入替を実施する予定。
(4) 新棟・既存棟ラウンジコモンズ 他 ICT 環境整備、 大短講義室 AV 環境整備	・大短新棟竣工を踏まえた各種コモンズ等の学生利用スペースの ICT 利用環境整備、ならびに教員の ICT 関連機器の共同利用環境を整備することで、教育研究への活用機材を充実させかつ合理化コスト削減を図る。	・大短学生利用教室の一部で IC カード学生証によるモビリティプリント等の実証実験開始	C	(1) B35 講義室 AV 環境整備は完了。 (2) IC カードによる認証印刷サービス導入は導入検証まで完了した。導入時期については予算化と合わせて検討する。

2. 白梅学園大学・短期大学

1. 建学の理念であるヒューマンイズムの精神及び子ども学のアップデートを構想する子ども学部改組について、補助金を活用しながら DGX を加速する地域エコシステムの形成を特色とする教育内容を検討し、東京農工大学農学部等の学外との連携等を行い、構想の具体化を推進した。
2. 学生募集活動については厳しい状況が続いているが、入試選抜方法の拡充など年内募集対策に力を入れてきた。収容定員充足率の改善へ向けた短期施策（編入学指定校の設定や入学金免除制度）は一定の成果が出ている。また、高大連携事業を活性化させ、新たに3校の高等学校（昭和第一高等学校、自由の森高等学校、大東学園高等学校）との連携協定を締結した。
広報機能の拡充として、学内でのプロジェクトチームの活動の推進を行い、多くの教育研究活動をホームページ、SNS を活用し広く知らせることで、学生募集につながっていると考えられる。
3. 大学の機関別認証評価を受審し、2025年3月に「適合」の判定を受けた。自己点検・評価活動、教学マネジメント・IR 活動を通じた、本学の内部質保証体制の確認とともにキャンパスソーシャルワーカーの配置、フードパントリーの企画運営、体系的なアカデミック・スキルの獲得に向けた「アカデミック・スキル 白梅オリジナルテキスト」の導入、学修成果の可視化への取り組みの一つである「子ども学会」が優れた点として評価された。一方、学生募集、ガバナンスについて一部指摘があり、次年度へ課題を残し、改善を目指す。
4. 80周年記念募金の一部と学生会からの寄付を活用し、学生の居心地のよい空間づくり及び学生募集に繋がる施設整備事業として、トイレ改修、体育館の空調設備の設置を行った。
5. 学生のエージェンシーを啓発するシンポジウム（2025年3月16日）、ジェンダー平等に関する特別講演（2024年10月19日）、国際研究交流の促進するシンポジウム（2024年11月9日）などを通じ、広く大学の教育・研究成果を発信するとともに、教員・職員・学生協働の体制に向けたイベントの実施を行った。

【予定通り進捗した主な施策】

1. 国際交流の活性化を図る白梅教育フォーラム 2024（国際研究シンポジウム）の実施
2. 大学機関別認証評価（第三者評価）受審による、自主的な内部質保証の充実
3. 大学子ども学部における新学科設置認可申請に向けた準備と対応
4. 学生の居心地のよい空間づくり及び学生募集に繋がる施設改修の検討

【実施できなかった主な施策】

1. 収容定員率の改善へ向けた学生募集活動

【次年度に向けた課題】

1. 新学科の設置と高大連携の推進、募集ターゲットの拡大
2. 多面的な学修成果の評価と内部質保証体制の構築
3. 大学単独で備えるべき危機管理についての対応の検討
4. 教・職・学協働及び連携体制の構築

（白梅学園大学・短期大学 学長 小玉 重夫）

【主要な事業の報告】

(白梅学園大学／大学院)

2－1．白梅学園大学／大学院

【年間評価（成果）】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「－」=評価不可

1. 教育活動の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 新学科体制での目的遂行	・学位プログラムごとに一貫性のある学生指導ができています。 ・高度化専門科目が着実に履修され、学生の学びが深まっている。 ・教職志向者のキャリア教育を適切に行っている。	・大学・大学院における研究倫理教育の実施のための共通テキストを作成し、学部全体において共通的な 1 年次よりアカデミックスキルの獲得による教育の質向上を目指す。	A	(1) 大学・大学院における研究倫理教育の実施のための共通テキストを刊行し、学部全体において共通的な 1 年次よりアカデミックスキルの獲得に貢献できた。半年の運用を得たのち、使用・指導上の課題を共有し、改訂版を 3 月末に刊行した。 (2) 2 年次の DP 中間ルーブリック評価について、学修成果の可視化として、2023 年度受講生より実施、2024 年度受講生にも実施した。
(2) 可視化した学修成果を用いた教育の質向上サイクルの展開	・アンケートを活用した効果測定ができています。 ・学科でまとめたリフレクションシートにより、教育活動の振り返り、改善方策の実施を記録できている。 ・共通テキストの導入が教育の質向上につながっている。	・アセスメントポリシーは策定した。アセスメントポリシーに則した IR データの収集及び分析結果を学科及び各部局へのフィードバックを行う。3 つのポリシーを起点とした内部質保証体制、教育環境についての検証を行う。	B	(1) アセスメント・ポリシーに基づいた、教学 IR データを収集し、3 月教学マネジメント・IR 委員会にてフィードバックを行った。 (4) 第三者評価受審による内部質保証のためのデータ収集及び体制について確認した。
2. 研究活動の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 成果発信の強化・充実	・要件が改善された個人研究費が有効に使われている。 ・学内刊行物への投稿が活発に行われている。 ・学内助成が積極的に活用されている。	・2023 年度学科長を通じ子ども学研究所のみならず、諸活動の大学においてホームページ、SNS 発信の情報提供を依頼しており、今後も継続する。 ・科研費等の外部資金へ研究者の申請の動機付け、きっかけづくりとなる公募申請説明会の実施や、研究計画作成段階における個別具体的なアドバイス提供については有効な研究支援、推進となるため継続して行う。	S	(1) 教育・研究成果発信を HP、SNS ともに発信することができた。 (2) 科研費応募支援は個別に希望者への支援を行い、新規で基盤 B・1 件、基盤 C・1 件が採択された。新規の採択率は前年比 6 % の向上。新規の直接・間接経費の合計は 2,743 万円で、前回の倍となった。大学で基盤 (B) の採択があったことは特筆に値する。 (3) 学内刊行物について、速やかに学術リポジトリで公開した。

(白梅学園大学／大学院)

【年間評価（成果）】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「－」=評価不可

(2) 子ども学アーカイブの構築と大学年史の編纂準備	・大学、短大年史資料の収集、整理、編纂準備が進んでいる。 ・古田家寄贈書、小松隆二氏寄贈書が整理され、公開されている。 ・子ども学アーカイブの構築が進んでいる。	・古田家寄贈書のコレクションの一部公開 ・大学・短期大学の歴史資料の収集、整理を進める。	A	(1) 2024 年 8 月～9 月の会期で神奈川近代文学館にて企画展「没後 10 年古田足日のぼうけん」を開催（主催：県立神奈川近代文学館、公益財団法人神奈川文学振興会）。白梅学園大学・白梅学園短期大学として特別協力（旧蔵書の貸出）をした。 (2) 古田足日寄贈書のデータベース構築を行い、学外に情報発信する準備を進めている。 (3) 古田家寄贈書の整理を進め、うち 240 冊について図書館データベースへの登録を行い、図書としての資産登録をした。
----------------------------	--	---	---	--

3. 学生・生徒・園児支援の推進

施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 組織的、包括的な学生支援体制の構築	・キャンパスソーシャルワーカーの雇用が常態化し、学生生活支援室が有効に機能している。 ・学生の居場所空間に、新棟、既存棟あわせて 400 席以上確保できている。 ・トイレの洋式便器率が 80%を超えている。	・学生課を総合窓口として、健康、心理、生活相談窓口が有効に機能していることから、体制を継続する。 ・フードパントリーの継続開催 ・予算の都合上、2024 年度の洋式化は実施しない。	S	(1) 学生課を総合窓口として、健康、心理、生活相談窓口について、教職協働し、体制を継続した。 (2) フードパントリーの継続開催した（毎月 1 回）。また、フードパントリーの活動レポートを武蔵野美術大学の学生の協力で作成し配布した。 (3) 当初 2024 年度の洋式化は実施しない予定だったが、学生アンケートを踏まえ優先的な箇所を決めて改修を行った（約 90%の箇所で改修済）。 (4) 体育館のエアコンが、80 周年記念事業募金と学生会からの寄付を一部活用して設置した。
(2) 多様な体験活動を通したキャリア啓発活動の推進	・地域連携ボランティアへの参加が、学生のキャリア啓発に寄与している。	・地域のみならず、産学連携を含め地域での学生の活動支援を行う。 ・新カリキュラム後期科目でのフィールドワークの充実	A	(1) 地域連携プロジェクト・ボランティア紹介による学生の活動の支援を実施した。 (2) 教育学科による、学校フィールドワークを実施、次年度への活動の場（国分寺市）を広げる。

4. 学生・生徒・園児の確保				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 本学のブランド力や学問の魅力を伝える募集活動	・本学の魅力が受験生・保護者に伝わり、18 歳人口の増減に影響を受けず入学定員 100%以上の入学者数を確保している。 ・学部の収容定員充足に向けては 3 年次編入学制度が活用されている。	・オープンキャンパスを通じ、本学及び子ども学の魅力を受験生・保護者、高校教諭等に伝え、参加者の出願率を上げる。 ・総合型選抜及び学校推薦型選抜の入学志願者で入学定員充足を目指す。 ・高校訪問を 400 回実施	C	(1) 2025 年度入学者を対象とするオープンキャンパス総来場者数は 1,963 名で昨年比 9%減。 (2) 子ども学部入学手続者数は 193 名（入学定員 230 名の 83.9%充足）となっており、2024 年度最終入学手続き者数 161 名から 32 名増となっている。また、編入学者も 14 名で 2024 年度より 8 名増。 (3) 3 月 16 日のシンポジウムは科研費（高大接続と大学初年次教育の思想・実践的研究－エージェンシーとアセンブリの視点から－）を活用している。 (4) 募集上の強化策として、昭和第一学園高校、自由の森学園高校、大東学園高校の 3 校と高大連携協定を締結。2025 年度に連携事業を計画している。
(2) 高等学校新学習指導要領、アドミッションポリシーに沿った入学者選抜の実施	・高等学校新学習指導要領に対応した入試への移行を円滑に行い、公平性・妥当性を有した選抜を行っている。 ・アドミッションポリシーを理解した入学志願者を安定的に確保している。	・新学習指導要領に対応した新たな科目名等での入試を実施 ・アドミッションポリシーを踏まえた入学者選抜を実施 ・アドミッションポリシーに沿った入学者選抜が妥当性をもって実施されているかについて検証を行う。	A	(1) 新学習指導要領を踏まえた入学試験問題をうい、且つ、アドミッションポリシーに基づく入学試験を実施した。 (2) 前年度入試の内容・妥当性を検証し、次年度入試では総合型選抜における白梅探究型入試を白梅アーリー入試としてアップデートする。 (3) オープンキャンパスの入試説明では受験生に対し、各入試制度の設定理由や試験科目設置の意図を説明した。
5. 学園広報の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 大学における広報・情報発信業務の確立	・大学としての広報・情報発信を積極的に行い、白梅学園大学・白梅学園短期大学の存在を広める。	・閲覧者視点のホームページデザインを目指し必要に応じてリニューアルを行う。お知らせ・告知だけでなく、大学・短大の活動報告を積極的に記事にする。年間 20 本の掲載を目標とする。	S	(1) 白梅盛り上げ隊を中心とした、学内の教育・研究情報をホームページのみならず、SNS にも積極的に発信を行った。
(2) ターゲットを意識した発信の工夫			A	(1) ホームページプロジェクトにおいて、閲覧者視点のホームページデザインを目指し必要に応じてリニューアルの検討を行っている。 (2) 大学・短大の活動報告を積極的に記事にする。年間約 60 本掲載した。

6. 国際交流の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 国際交流活性化の具体的な支援策検討	・大学の諸活動、及び教員の研究活動について、英文での情報発信を強化する。また、教員の国際交流の活性化を図るとともに、学生の国際化意識を高める。	・大学ホームページの英文発信を増やす。 ・教員の国際交流及び海外・国際学会等の参加状況に応じた支援を検討する。現在海外の旅費の高騰に伴い検討を要している。	B	(1) 大学ホームページの英文発信は増やせなかった。 (2) 教員の国際研究シンポジウムを実施した。 (3) 国内外の宿泊費について、実情に合わせ、改定を行った。
(2) 留学生の受け入れについて将来的方針の検討	・18 歳人口の減少による入学志願者減少への対策と学生の国際化意識を高める留学生受け入れの両面から検討したうえで、本学としての将来的な方針が決定している。	・今までの状況（留学生数、入試問い合わせ件数等）を再調査し、本学の状況に即した留学生受け入れの方針と体制について、将来的な方針について論議する。	B	(1) 実践女子大学にて実績のある留学プログラムについて、キャリアサポート課にて学生へ紹介できるように共有した。 (2) 留学生の受け入れについては、積極的に受け入れしている嘉悦大学の募集担当者からの情報収集を行った。本学の教学的な受け入れ体制の構築を検討した上で、留学生募集について考える必要性を感じている。
7. 生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 地域のニーズに応える「特定課題活動」の継続	・特定課題活動が継続して実施されている。 ・地域課題解決型プロジェクトの新規案件の提案があり、積極的に取り組まれている。 ・社会の要請にこたえる公開講座、研修講座が開催されている。	・子育て広場や小平西地区ネットワークなどの活動の継続	A	(1) 子育て広場、小平西地区ネットワークの活動は年間通じ、イベント等を開催した。（子育て広場、シンポジウム、懇談会、報告誌の発行）
(2) 「地域課題解決型プロジェクト」による地域のシーズ発見		・地域課題解決型プロジェクトの助成採択 ・小平市、国立市の連携強化の継続 ・URA 導入の検討	S	(1) 子ども学研究所の地域課題型活動プロジェクトの他に、学長裁量費による白梅防災プロジェクトでは学生、地域を巻き込んだ活動などを実施した。 (2) 小平市療育支援事業は小平市との契約通り、実施した。 (3) URA の導入はしなかったが、研究補助者を導入し、試行した。
(3) 講座開催による社会貢献		・保育士キャリアアップ講座、公開講座、市連携講座及び受託講座を実施する。	S	(1) 保育士キャリアアップ講座（5 講座）、公開講座、小平市連携講座を実施した。そのほかカリキュラム教育の一環として大学院主催の子ども学カフェや学長企画講座を 3 回実施した。 (2) 上記学長裁量費による講座（教職）、イベント（防災）を実施した。 (3) あきる野市による委託講座を 3 日間実施した。

【年間評価（成果）】S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

8. 卒業生との連携等の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 卒業生を対象としたリカレント教育	・母校への愛着、帰属意識をより高め、卒業後も応援し続けてもらえると同時に頼られる大学・短期大学を目指す。また、リカレント教育（現職者教育）を通じた卒業生との交流の場を積極的に設ける。	・保育士キャリアアップ研修の継続実施 ・小平市地域の保育園との連携の継続 ・同窓会支部会等への教員派遣と懇談会の参加促進 ・卒業生アンケートの継続実施。2 か年分の分析及び学科等へのフィードバック	A	(1) 保育者等を対象にした講座（キャリアアップ講座、公開講座）を実施した。 (2) 大学院主催による、卒業生、現職者、院進学希望者を対象とした子ども学カフェを実施した。 (3) 就職先、卒業後アンケートについては次年度実施することとした。 (4) 2023 年度実施した、就職先、卒業後アンケートを教学マネジメント・IR 委員会にて結果の報告を行った。
10. 建学の精神の高揚				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 建学の精神を継承する教職員研修の実施	・大学・短期大学の歴史を伝える機会を設け、先人たちの志と建学の知的心性を知り、ヒューマンズムの精神の理解を深める。	・年史編纂室によってリスト化された資料を紹介し、大学・短期大学の今までの教育研究活動を共有する。	C	(1) 歴史編纂に関する資料の収集は実施したが、成果の報告をまとめるには至っていない。
(2) 建学の精神の継承	・建学の精神の継承と社会の変化に応じた変革	・SGD 策定時に建学の精神について触れる	B	(1) 学長より、教授会等で折に触れ、学科の組織改編に向け、ヒューマンズムの精神、子ども学のアップデートについて構想を確認し、準備を行っている。 (2) 2025 年 4 月に建学の理念と関連した、講演会実施の計画を行った。
11. 令和充実 5 ヶ年計画・80 周年記念事業				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 中期計画の履行	・学園史編纂を通して、特に大学開学以降の歩みを整理する。	・新学科の適正な履行 ・SGD 策定の検討	B	(1) 履行状況調査において、指摘事項があり（定員充足率について）、改善に向け募集活動を実施。子ども心理学科では、2024 年度募集 33 名（定員充足率 83%）から 2025 年度募集では 45 名（同 113%）へ、教育学科は 2024 年度募集 24 名（同 48%）から 2025 年度募集では 35 名（同 70%）まで回復した。 (2) 新学科の標準設置経費が不足し設置認可申請が困難となった。ただし、設置経費を必要としない申請を行う。
(2) 大学開学以降の歩みの整理		・年史編纂室による、資料のリスト化を進める。	C	(1) 歴史編纂に関する資料の収集は実施したが成果の報告をまとめるには至っていない。

【年間評価（成果）】S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

12. 大学短大新棟・施設中長期整備計画				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 基本構想策定と基本計画の答申	・大学短大新棟について、2024 年工事開始、2026 年供用開始に向けて、建築委員会で検討を進める。	・常勤理事会から大学・短大へ検討を依頼された事項について対応する。	S	(1)当初 2024 年度の洋式化は実施しない予定だったが、学生アンケートを踏まえ優先的な箇所を決めて改修を行った（約 90%の箇所で改修済）。 (2)体育館のエアコンが、80 周年記念事業募金と学生会からの寄付を一部活用して設置した。
(2) 新学科設置に続く、新たなプランの検討	・白梅学園グランドデザイン（SGD）と連動し、2026 年度までに新たなプランが具現化されている。	・SGD 検討 ・次期改組またはカリキュラムについての検討開始	B	(1)近年の学生募集不振による収入減で、新規学位分野を含む新学科の標準設置経費の捻出が困難になったが、子ども学科のカリキュラムを改編し事実上の新学科として打ち出していく。 (2)新学科（定員 140 名）は、保育・幼児教育、社会福祉及び環境教育の実践とともに子どもの育ちを支え地域づくりとコモンズ（地域共生社会）の創成に貢献する人材を育成する。また、保育・幼児教育、社会福祉の学びに環境系のプログラムを付加し、DGX 人材や文理融合型人材の育成を視野に入れる。 (3)本学を拠点に産官学民が協働する場を展開し、学生に市民性の涵養を促すことで真に社会で活躍できる人材を養成する。
13. 財政再建計画				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 広報戦略の策定効果検証	・費用対効果を検証した予算配分システムが実行されている。	・費用対効果の高い広報活動を展開する。	A	(1)株式会社リクルートによる募集分析説明会を、大学執行部、入試制度委員会、入学センター職員を主たる対象者として開催した。 (2)外的な募集環境と本学の募集構造について検証し次年度の募集活動及び予算の策定と広告契約の内容に反映した。
14. ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 第三者評価を通じた、より適切なガバナンス体制の構築	・透明性の高い執行体制が築かれている。	・第三者評価受審	A	(1)第三者評価では「適合」の評価を受けた。指摘を受けた事項については、3 年以内に改善報告書を提出する。優れた点と評価された部分は、学内にて共有し、継続を行う。

【年間評価（成果）】S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「―」=評価不可

(2) リスク管理のため、危機管理マニュアルの整備	・危機管理マニュアルが策定されている。	・各種規程、マニュアルの策定状況の確認及び更新	C	(1) 一部の事象に関するマニュアルや対策がないものについて、策定等進めることはできなかった。
---------------------------	---------------------	-------------------------	---	---

15. 管理運営（施設改修・更新・労務他）

施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 学生の居心地のよい空間づくりの促進	・学生の居場所空間に、新棟、既存棟あわせて400 席以上確保できている。 ・トイレの洋式便器率が80%を超えている。	・トイレの洋式化は予算上2024 年度は行わない。 ・新棟建築までは最低限の改修、設備更新とする。	S	(1) 大短校舎のトイレ改修工事は3月13日に完了。工事前、大短のトイレの個室の便器総数は112基（和式：59基、洋式：53基）であったが、本工事により便器総数は105基（和式：11基、洋式：94基）となった。学生の利用頻度や入試広報戦略で重点度の高いトイレについては、水栓（手洗器）のセンサー化、応接室近くの来客利用の多いトイレ等については、一段グレードの高い改修を行うなど、個別の使用事情の必要に応じた改修を行った。 (2) 第一大体育館の空調設備設置工事が完了し3月26日引き渡しとなった。エアコンは6基設置したため、操作は集中パネルで実施。年度末より運用開始している。

16. 情報化教育/ICT

施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 学習支援システムの活用状況検証	・学習支援システム（ラーニングマネジメントシステム）の活用と合わせ、講義室のAV設備環境の統一化を図ることで、全ての授業がICTを活用した授業展開ができるようにし、ポスト・コロナ時代をも見据えた環境整備を進める。	・学習支援システム（ラーニングマネジメントシステム）の活用は定着している。学習支援システム（ラーニングマネジメントシステム：LMS）の活用状況を検証し、今期中期計画中に実現すべきカスタマイズ等を洗い出す。	A	(1) ポストコロナにおける、LMSの活用は各授業担当者で進んでおり、事業を達成している。

【主要な事業の報告】

(白梅学園短期大学)

2－2．短期大学

【年間評価（成果）】S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「－」=評価不可

1. 教育活動の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1)新カリキュラムの実装	・入学時からのきめ細かいゼミ指導ができています。	・1 年前期のゼミ実施による、細やかな初年次教育の実施	A	(1)1 年前期より「基礎ゼミナール」を開講し、共通テキストを使用して細やかな初年次教育を行った。
(2)短期大学独自の学修カルテを用いた学修成果の可視化	・学修成果を可視化し、教育活動の振り返り、改善方策の実施に活かしている。 ・共通テキストの導入が教育の質向上につながっている。 ・リフレクションシートにより、教育活動の振り返り、改善方策の実施を記録できている。	・2024 年度入学生より全科目でのルーブリック評価の実施 ・研究倫理教育の実施のための共通テキストを作成し、共通的な 1 アカデミックスキルの獲得による教育の質向上を目指す。 ・ルーブリック評価を用いた多面的な評価の活用と自己評価とフィードバックの実施	A	(1)専任教員担当科目についてルーブリック評価を実施し、次年度以降にルーブリックを用いた多面的な評価の活用を行うための検討・準備を行った。
2. 研究活動の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
大学と連携して推進する。				
3. 学生・生徒・園児支援の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
大学と連携して推進する。				
4. 学生・生徒・園児の確保				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1)本学のブランド力や学問の魅力を伝える募集活動	・本学の魅力が受験生・保護者に伝わり、18 歳人口の増減に影響を受けず入学定員 100%以上の入学者数を確保している。	・オープンキャンパスを通じ、本学及び保育・幼児教育学の魅力を受験生・保護者、高校教諭等に伝え、参加者の出願率を上げる。 ・総合型選抜及び学校推薦型選抜の入学志願者で入学定員充足を目指す。 ・高校訪問を 400 回実施 ・日本私立短期大学協会（広報委員）の中心的な役割を担う。	C	(1)2025 年度入学者を対象とするオープンキャンパス総来場者数は 1,963 名で昨年比 9 %減。 (2)保育科入学手続き者数は 46 名（入学定員 80 名の 58%充足）となり、2024 年度最終入学手続き者数 68 名から 22 名減となった。 (3)3 月 16 日のシンポジウムは科研費（高大接続と大学初年次教育の思想・実践的研究－エージェンシーとアセンブリの視点から－）を活用した。 (4)募集上の強化策として、昭和第一学園高校、自由の森学園高校、大東学園高校の 3 校と高大連携協定を締結し、2025 年度に連携事業を計画している。

(白梅学園短期大学)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

(2) 高等学校新学習指導要領、アドミッションポリシーに沿った入学者選抜の実施	大学と連携して推進する。			
5. 学園広報の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
大学と連携して推進する。				
6. 国際交流の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
大学と連携して推進する。				
7. 生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
大学と連携して推進する。				
8. 卒業生との連携等の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
大学と連携して推進する。				
10. 建学の精神の高揚				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
大学と連携して推進する。				
11. 令和充実 5 ヶ年計画・80 周年記念事業				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
大学と連携して推進する。				
12. 大学短大新棟・施設中長期整備計画				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 基本構想策定と基本計画の答申	大学と連携して推進する。			

(白梅学園短期大学)

【年間評価（成果）】S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「―」=評価不可

(2)短大将来像の検討と教員業績作成促進	・白梅学園グランドデザイン（SGD）と連動し、短大将来像を示すロードマップが策定されている。	・SGD 検討 ・ロードマップの検討	A	(1) 教学・経営協議会にて議論を行い、2026 年度より入学定員を 60 名へと変更。また、2027 年度時点の募集状況により将来構想を検討する。 (2) 基幹教員制度の活用による収支バランスの改善を検討した。
13. 財政再建計画				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 大学・短期大学全体の適切な定員設定での改組	・外部募集環境を踏まえ、適切な定員管理による収入の安定化に寄与している。	・短大の募集状況を学内関係者に共有する。	A	(1) 株式会社リクルートによる募集分析説明会は、大学執行部、入試制度委員会、入学センター職員を主たる対象者として開催した。 (2) 外的な募集環境と本学の募集構造について検証し次年度の募集活動及び予算の策定と広告契約の内容に反映した。
14. ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
大学と連携して推進する。				
15. 管理運営（施設改修・更新・労務他）				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
大学と連携して推進する。				
16. 情報化教育/ICT				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
大学と連携して推進する。				

3. 白梅学園高等学校

生徒を中心に据え、教職員・保護者・卒業生・関係諸機関がうまく連携して教育活動が活性化した。具体的には、「父母と先生の会」による白梅祭や 11 支部私学振興拡充大会への協力、小平市長の白梅祭来校、公民館主催の高校生企画事業への参加、小平灯り祭りへの参加、津田塾大学・実践女子大学との高大連携締結などがあげられる。また、生徒の学力及び人間形成に向けた教職員の協力体制も通年で継続できた。

【予定通り進捗した主な施策】

1. 質の高い授業づくり

生徒間の対話と表現のある授業場面を創り出していくことは、非常勤講師を含めて前進しており、3月3日時点では、全教員の75.7%が実践している。(今年度の数値目標は70%) また、今年度に入ってから3人又は4人での少人数グループによる学習活動を取り入れる教員が増加した。

2. 生徒が達成感・成就感を味わえる特別活動

三行大行事(体育祭、合唱コンクール、白梅祭)は、実行委員会生徒たちの主体的な取組が前進し、総じて楽しみながらかつ真摯に臨む様子が見られた。これらの行事で高みを目指し、学校としての一体感を持って取り組むことができた。また、生徒たちの帰属意識や達成感・成就感を味わう様子も伺えた。

3. 生徒の希望進路の実現

年間進路指導計画に基づく講演会・説明会等を予定通り実施した。いわゆる年内入試(総合型選抜や学校推薦型選抜)に臨む生徒が増加傾向にあることから、小論文添削指導や面接練習など、さまざまな教員のかかわりを通して支援した。また、一般選抜や個別学力試験に臨む生徒たちに対して、個別添削指導をするなど、きめ細かく対応して進路実現へつなげていった。前年度と比較して主な大学合格実績は向上した。

【実施できなかった主な施策】

1. 入学者数の安定確保

募集対策部による外部説明会等への参加をはじめ、校内での体験入学・学校見学会、学校説明会、個別相談、入試相談を通して、中学生と保護者へ本校の良さ・強みを訴求した。また、学校Webサイト・SNSの更新を適宜行い、情報発信したが、入学者数は219人に留まり、280人の入学者を確保することができなかった。

【次年度に向けた課題】

1. 入学者数280人の確保

2. 特別選抜コース生徒の学力状況を踏まえた生徒へのフィードバックの実施

(白梅学園高等学校 校長 武内 彰)

【主要な事業の報告】

(白梅学園高等学校)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

1. 教育活動の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1)質の高い授業づくり	- 生徒間の対話と表現のある授業が、日常的に実践されている。 - 生徒による授業評価アンケートにおける設問「授業中に対話的な学びがあるか」において、5段階評価で4.5を達成する。	- 日常的に授業内で「生徒間の対話と表現」を実施する教員の割合を増やしていく。【専任教諭・常勤講師・非常勤講師全体で70%を目指す】 - 日常業務において、適宜情報交換・情報共有をしていく。 - 授業研究週間、ピックアップ授業、校内研修等をとおして、実践共有をしていく。	S	(1)日常的に授業内で「生徒間の対話と表現」を実施している教員は着実に増えた。【専任教諭・常勤講師・非常勤講師全体で75.7%】 (2)授業に関する情報交換・情報共有は日常的に行われた。 (3)授業研究週間(9月17日～10月11日)及びピックアップ授業研究(二学期に11名の教員が対象)、それに基づく校内研修を12月11日に実施した。
2. 学生・生徒・園児支援の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1)生徒が達成感・成就感を味わえる特別活動	- 生徒たちが体育祭・合唱コンクール・白梅祭を通して達成感・成就感を味わうことができる。 - 各実行委員会生徒の主体性を活かした計画・実施とする。	- 体育祭、合唱コンクール、白梅祭を開催する。 - 学習とのバランス、各行事間の準備のバランスをとりながら、一人一人の生徒が役割を担い、協働していけるように支援する。 - 実行委員会の生徒に任せる部分と担当教員主導で行うところとのメリハリをつけた企画・実施とする。	A	(1)体育祭は半日実施から全日実施へと戻し、合唱コンクールは各クラス自由曲1曲で実施した。白梅祭は、飲食の制限を緩和するとともに、公開範囲を友人まで拡大して実施した。いずれも生徒たちは真摯に取り組み、達成感・成就感を得ることができた。 (2)三大型事におけるクラス内での役割分担と協働も円滑にできた。 (3)実行委員会生徒の主体性が発揮される場も拡大傾向にあり、成長が伺えた。
(2)生徒の希望進路の実現	- 現役で国公立15名、早慶上理20名、GMARCH35名の合格者を出す。 - 特別選抜コース会議において模試の分析を行い、教員会又は校内研修等において共有し、教科指導へ反映させる。 - 各教科内で効果的・組織的な特別選抜コースの教科指導を確立させる。	- 入学時に国公立系の生徒を10名以上確保することを目指す。それがかなわないときは、1年間の教科指導を通して、国公立系に上がる生徒を育成して確保する。 - 模試の分析と共有(年3回)	A	(1)特別選抜コース長のリーダーシップの下、各学期に模試分析や大学受験結果分析を行い、教員間で共有した。 (2)特別選抜コースの教科指導の在り方について、教科内での情報共有は図られたが、より効果的・組織的な指導についての検討は今後の取組が必要である。 (3)2025 年4月入学生は、国公立系で12名と、10名以上確保することができた。 (4)2025 年3月卒業生の大学合格実績は全般的に向上した。 【主な大学合格実績】()内は前年度 国公立大学11名(8名)。早慶上理5名(4名)、GMARCH22名(22名)、日東駒専26名(17名)、三女子大(津田塾、東京女子、日本女子)42名(36名)

【年間評価（成果）】S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

3. 学生・生徒・園児の確保				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1)入学者数の安定確保	・募集人員の確保(当面一学年 280 人の人員確保を目指す) ・特別選抜コースの入学生を確保するために、塾訪問をルーティン化する。(国公立系生徒の出身塾)	・学校 Web サイトでは、1 週間に複数回の更新を目指す。 ・SNS では年間の見通しをもって、タイムリーに情報発信していく。 ・国公立系生徒の出身塾訪問は夏季休業日までには終える。	C	(1)学校 Web 生徒の更新は、1.8 日に 1 回、instagram の更新は 4.9 日に 1 回であった。LINE は 10 月以降に 7 回更新を行った。校長室だよりは 21.8 日に 1 回の更新であった。 (2)東京私立中学校高等学校協会 Web サイトへの情報掲載は予定通りに実施した。 (3)国公立系生徒の出身塾訪問は、76%の実施率にとどまった。 ・結果として募集人員 280 名のところ、入学者数は 219 名に留まった。

4. 白梅学園清修中学校・中高一貫部

第2期中期実行計画1年目では、本校の最重要課題である財政の健全化に向けた生徒数確保のための募集活動に注力してきた。その結果、11月末時点で、学校説明会等への参加人数は昨年度比137%、特に重要な10～11月は同比166%、入試要項説明会では同比218%となり一定の成果が見られた。結果として、17年ぶりに定員数を確保することができた。また、生徒の進路実現に向け、組織的な学習指導や進路指導を行った結果、難関国立大学をはじめとして、難関私立大学にも多数合格者を出すことができた。

【予定通り進捗した主な施策】

1. 英語教育の推進

本校教育の特色である英語教育、5000字論文を中心とした探究学習、キャリア教育に有機的な繋がりを持たせるプログラムを構築した。

2. 生徒募集対策

より魅力ある学校を目指し、以下の新たな取組を企画・導入した。

- ①海外英語研修（中学3年フィリピンセブ島、高校2年オーストラリアブリスベン）
- ②適性検査型入試3タイプ実施（立川国際・南多摩型/三鷹型/武蔵・大泉型）
- ③教科型入試で当日選択できる2科選択入試と1科選択入試の導入
- ④Tea Timeの導入・ミニコンビニ設置、ランチボックスの導入
- ⑤9月よりメンター制を取り入れ、来校者や塾と本校担当者の結びつきを強化し、リピーターとして説明会等イベントへの参加・入試体験会・出願・入学へと繋げた。

3. 進路実現に向けた組織的な指導

模試分析を教科担当が行い、学力向上プロジェクトミーティングで情報を共有する。これにより、一人一人の学力向上と進路目標の実現に向けた、個別の指導方法と各教科の授業での具体的な取組に繋げていく。また、受験に伴うメンタルケアも面談や交換プリントなどを通してタイムリーな対応を組織的に行った。

【実施できなかった主な施策】

「女子教育の充実」について、「ヒューマニズム」の観点から、ことさらに「女子」を強調し過ぎず、将来を担う責任感と実行力を持つ青年としての育成に主眼を置いた教育を実施した。

【次年度に向けた課題】

1. 「主体的、対話的で深い学び」を推進するように評価の在り方を見直し授業改善を図るとともに、自主課題プリントなどを通して生徒の学習習慣の確立と進路実現に向けた学力の向上に向け、全教員が組織的に取り組む体制を構築する。
2. クラウドファンディングなどを通して、清修のブランディングを進め、効果的・効率的な募集活動によって、安定的な生徒数の確保を図る。

（白梅学園清修中学校 校長 南 和男）

【主要な事業の報告】

(白梅学園清修中学校・中高一貫部)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

1. 教育活動の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 女子教育の充実	・女子校の社会的ニーズに応え、自ら考え判断し行動できる女性の育成を目指す。	・学校行事等のグループ活動や異学年縦割りの活動の中に、一人一人の生徒のよさを活かした役割を意図的に取り入れ、一人一人の生徒が輝く機会を設定する。	B	(1) 5 月スポーツフェア(体育祭)、9 月全校遠足において異学年縦割りの活動を実施し、上級生が下級生のロールモデルになる取組ができた。津田塾大学との連携は、特別講義のみにとどまった。
(2) 英語教育の推進	・英語によるコミュニケーション能力の育成を目指す。	・英語に関わる学校行事と英語科のカリキュラムを連動させ、英語スキルを向上させる実践の場として成果を上げる。 ・中学 1、2 年生の授業を充実させるために、少人数指導による授業を定着させる。	A	(1) 新たな海外研修プランと探究学習、キャリア教育の繋がりを持たせ、英語を主とした大学受験へと結びつける体制を構築した。英検等を積極的に取得するなど、少人数指導の成果が現れている。
(3) ICT 活用	・ICT を活用する能力を高め、主体的な学びの基盤となる能力の育成を目指す。	・Classi を活用し、生徒の主体的な学びの道具として活用する。 ・生徒の学習への興味や関心、意欲を喚起するために、タブレット端末や電子黒板など ICT を最大限に活用する。	A	(1) 生徒の学習への興味や関心、意欲を喚起するために、タブレット端末や電子黒板など ICT 機器を積極的に活用した。中でも、生徒の主体的な学び、情報交換の手段として Classi を大いに活用した。
2. 研究活動の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 生徒の学力向上	・学力向上に向けた授業改善に組織的に取り組み、自らよりよい授業を目指す教員を育成する。	・年間 3 回以上、校内及び白梅学園高等学校の公開授業を参観し、参観の観点を 3 つ明確にして授業を分析する。 ・探究的で対話的な授業を工夫し、思考力、表現力の育成を図る。 ・中学 1 年生生徒へ学生ボランティアによる TT を実施し、基礎的・基本的な学習内容を確実に身に付けさせる。	S	(1) 各教科において模試分析を行い、全教員間で情報共有を図り、学力向上・進路目標の実現に向けた体制を構築した。主体的・対話的で深い学びが達成できる授業の工夫を行い、思考力、判断力、表現力の育成を図った。
3. 学生・生徒・園児支援の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 自己実現に向けた生徒指導の充実	・一人一人の生徒の教育的ニーズに応じて個別最適な学びを支援する。	・不登校傾向や集団不適応生徒の実態を共有し、適切な支援を行うために校内委員会をもつ。	A	(1) 対象生徒の緊急度の高いものは、随時校内委員会を開催するとともに、関係各所または全教員に適宜情報共有を図っている。

4. 学生・生徒・園児の確保				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 募集対策の工夫	・ 安定的に入学者を確保する。	・ 学校説明会で、生徒のよさ、女子校の魅力を伝える工夫をする。 ・ 一人一人の教員が学校のよさを伝えるプレゼンテーション能力を高める。	S	(1) 年間 14 回の学校説明会の場や学校行事など様々な場面で生徒の活躍の場面を設定し、受験者に入学後のイメージを持たせることができた。9 月以降はメンター制を採用し、積極的かつ効果的な広報活動を実施した。12 月の入試体験会では受験に向けた特別講義を行い、さらに特別個別相談会を実施するなどして本校第一志望者の確保に努めた。
6. 国際交流の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 外国人、留学生との交流	・ 外国人とも積極的にコミュニケーションを図ることができる。	・ 外国人とも積極的にコミュニケーションを図ることができる機会を設定する。	A	(1) 2 年生では事前学習として 7 月に留学生と交流し、11 月に英語国内研修を実施した。4 年生でも事前準備をしっかりしたうえでカナダの語学研修を実施した。また、10 月 1 日の“HEART Global”公演キャストのホームステイ先として、生徒の家庭に協力いただき交流を進めた。
7. 生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 小平市との連携	・ 地域社会に貢献する学校を目指す。	・ 小平市中央公民館事業と連携を図る。	A	(1) 小平市中央公民館事業と連携を図り、移動子ども食堂やジオラマの展示などの取組に参加した。また、地域の学校間交流の一つとして市内一斉清掃活動に参加した。
8. 卒業生との連携等の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 同窓会との連携	・ あこがれの先輩としての存在からキャリア教育に結び付ける。	・ 卒業生との連携を、進路説明会や学校説明会の講演でつないでいき、各卒業年時の卒業生との関係を維持強化していく。	B	(1) OG 進路講演会（9 月）と学校説明会（4 月～9 月）への参加協力を得た。
9. 働き方・仕事の仕方の見直し				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) 学校運営組織の強化	・ 校務を組織的に取り組むため、責任者を明確にする。	・ 専任教員は、校務分掌の責任ある立場で務める。	A	(1) 部長会での決定事項を即時オープンし、各会議はそれを踏まえたうえで実施される体制を整えた。その結果、会議の時間は短縮されながらも各分掌の役割は適切に遂行されるとともに、連携の充実も図れた。

10. 建学の精神の高揚				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1)建学の精神を時代のニーズで捉える。	・時代のニーズに応じた育てたい生徒の姿を明確にする。	・中長期の将来構想をまとめる清修グランドデザイン策定会議を組織する。	A	(1)ヒューマンイズムの精神について、Society5.0 の時代背景を踏まえたいえでの理解を深めさせ、入学式や卒業式、保護者会、学校説明会を通じて周知した。
13. 財政再建計画				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1)学校運営経費のスリム化	・入学生徒の 40 名確保 ・学校運営経費のスリム化	・支出削減を維持、学園全体の削減率+5 %	A	(1)次年度予算の設定に伴い、10%削減を実施した。
16. 情報化教育/ICT				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1)今後のオンライン教育のあり方の検討	・タブレット端末を使った新しい授業の創造	1. 教育活動の推進 (3)ICT活用	A	(2)5月にオンライン授業の日を定め、有事の際の適切な対応の準備を進めた。また、ICTについては、授業や委員会活動、清修フェスタ準備などで積極的に活用した。

5. 白梅学園大学附属白梅幼稚園

白梅幼稚園は大学附属の幼稚園として大学・短期大学の教育・研究と連携・協力を図り、子ども自ら遊ぶ先進的な実践とその研究を行い、その成果を発信し、提案を行った。2024年度は、先進的な保育実践や保育環境の最適化、カリキュラム開発を推進した。また、2025年度に満3歳児保育を開設することとなり、未就園児保育《ぴよぴよ》の新計画を決定した。

1. 先進的な幼児教育の実践と研究の推進

子ども自ら遊び、探究と協働を深める幼児教育の実践と研究を行った。

- ①「保育環境の最適化」として、保育者の保育構想のもと、環境会議等を活用しながら、室内外の保育環境を構築した。安全で衛生的な園環境の整備として、備品や遊具、素材を更新したほか、屋外の遊具や収納用具の制作と補修や、園庭の花壇整備を行った。
- ②探究と協働を軸にしたカリキュラムの開発を推進した。年齢に応じた保育や異年齢活動「うめっこひろば」の実践など諸般の取組を活性化させたほか、探究ドキュメンテーションを開発し、保育評価としての子どもの経験の解釈について園内で共有を図った。
- ③研究の推進と成果の公表を進めた。文部科学省研究開発学校として、小平市立小平第一小学校と、幼小一体的なカリキュラム「生活ひろば」の研究開発を進め、第二年次の成果をとりまとめた。「探究の自律的深化」をテーマに公開保育研究会を開き、成果発表と交流を行った。

2. 大学・短期大学の教育・研究との連携・協力の強化

大学・短期大学に教育・研究の場を提供するとともに、学術研究の成果の還元を受けて、幼児教育の実践や研究を充実させるなど、大学附属園として先導的な役割を担った。

教育実習や心理実習の受入や指導、学生の保育参観の受入や専門ゼミナールのワークショップの実施など、保育者養成など大学・短大の教育に貢献した。大学の施設等の協力を得て、園児や保護者の活動の充実を図った。大学・短大の研究・調査に協力するとともに、幼稚園の研究や保育について大学・短大の教員から指導・助言を受けて、充実と改善を図った。

3. 白梅幼稚園の広報活動の充実

ホームページの刷新や広報誌等の充実、ネットワーク環境の積極的複合的活用を図り、保護者目線の信頼できる情報を提供するなど、本園の諸活動の広報を充実させた。

具体的には、複数のSNSを活用し、保育の様子や未就園児企画の情報などを随時配信した。広報の時期と内容、方法を見直した上で、2026年度募集対策の開始を早めた。12月にホームページを全面更新し、それぞれのメディアについて使い分けと連携を図った。

4. 2歳児クラスの保育や未就園児対象企画の充実と満3歳児保育の開設

2歳児クラスの開講期と保育内容を見直し、後期については週3・週4クラスを増設し、入園後の保育との接続性の向上を図った。園庭開放やお話し会など未就園児対象企画の充実などを通して、地域の子育て支援に資するとともに、本園の保育について理解を促した。

2025年度より満3歳児保育を開設することを決定し、その準備を進めた。並行して、未就園の2歳児クラス《ぴよぴよ》の新計画を策定し、東京都の未就園児保育事業への申請を検討した。これらを通し、地域の子育て支援に資する体制が整えられた。但し、安全と衛生の面から旧園舎の保育環境の整備を優先せざるを得ず、満3歳児の保育室環境整備は来年度に先送りとなった。

5. 本園のブランディングの検討と試行

本園のブランディングに関する検討を行い、試行を進めた。「白梅ならではの」を掲げ、「白梅の保育」「ライフスタイルに応じた子育て支援」「大学との連携・協力」を柱とした。「子育て支援」については、「選べる」をキーワードに「白梅ならではの子育て支援」を打ち出した。

【その他、予定通り進捗した主な施策】

1. 保護者ボランティアの導入と、保護者活動と保育との連携
2. 保護者の子育てを「エンカレッジ」する支援の実施

【実施できなかった主な施策】

特になし

【次年度に向けた課題】

1. 満3歳児保育の開設
2. 東京都「多様な他者との関わりの創出」事業の応募と実施、こども誰でも通園制度の導入検討

(白梅学園大学附属白梅幼稚園 園長 本山 方子)

【主要な事業の報告】

(白梅学園大学附属白梅幼稚園)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

1. 教育活動の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1)「子ども自ら遊ぶ」幼児教育の実践の構築	・ 保育環境に誘われ、「もの」「人」「こと」を相互に関連付け、子ども自ら遊びを立ち上げ、深める「子ども自ら遊ぶ」幼児教育を実践する。	①自由遊びを主とする子ども自ら遊ぶ保育を実施する。カリキュラム・マネジメントにより、日々の保育や行事等を振り返り、年齢に応じた保育を更新する。	A	(1)自由遊びを主とする子ども自ら遊ぶ保育を実施した。園内研究会やカリキュラム会議などでの種々検討をふまえカリキュラム・マネジメントを行い、日々の保育や行事等を振り返り、年齢に応じた保育を更新した。
(2)保育環境の最適化	・ 遊びを誘発し、かつ、安全で衛生的であるように、保育構想に基づき、室内外の保育環境の最適化を図る。	①保育者自らの保育の構想に応じて、保育室内のものの配置を見直し、可変的で衛生的な保育環境を構成する。 ②室内外に配置されたものの傷みや安全性等を点検し、必要に応じて修理や更新を行う。 ③環境会議を開催し、教員相互に環境構成を実地で学ぶ合う。 ④園庭ワークショップを実施し、園庭や屋外の保育環境について最適化を図る。	A	(1)保育者自らの保育の構想に応じて、保育室内のものの配置を見直し、可変的で衛生的な保育環境を構成した。 (2)屋内外に配置されたものの傷みや安全性、衛生面等を点検し、一部廃棄や修繕を行った。保育室のタオル掛け(アルミ製フックスタンド)や素材分別用ワゴン、おうちごっこの一部用具(流し台、電子レンジ、冷蔵庫)、図書室の絵本を更新した。また、砂場の砂を一部補充した。保護者による園芸ボランティアを導入し、園庭の花壇整備を行った。花などは色水遊びに使用した。3月に旧園舎昇降口の床をシート貼りにて修繕した。 (3)環境会議を4回開催し、教員相互に環境構成を実地で学び合った。 (4)講師の指導のもと、園庭ワークショップを開催し、遊具や収納用具について、修繕や制作を行った。

(白梅学園大学附属白梅幼稚園)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

(3)教育における大学・短大との連携・協力の強化	・大学・短大による子ども学の実践や、保育者養成教育に協力し、互恵的な学びの関係を築く。	①大学・短大の教育実習生を受け入れ、保育者養成教育に貢献する。 ②大学・短大の学科や施設等と連携・協力し、園児及び学生の諸活動の充実を図る。 ③大学・短大で開講する授業等に対し、参観の場の提供や、幼児教育実践や保育職に関する話題提供などを通して協力をを行う。 ④保育環境整備や保育補助等について、高校生や大学生等のボランティア等を導入し、学生・生徒の保育経験の充実に貢献する。	A	(1)大学・短大の教育実習生を14名(うち1名は補充実習)、心理実習生1名を受け入れ、保育者養成教育に貢献した。 (2)大学の施設等の協力を得て、年長組のオリエンテーリングを実施し、園児の活動の充実を図ったり、保護者によるコンサートの練習や準備を行った。 (3)大学の子ども学科と発達臨床学科については、教育実習の事前指導で2回講話を行い、授業における保育参観を2件受け入れた。加えて、子ども学科の専門ゼミナールのワークショップを2回実施するなど、大学の保育者養成教育に協力を行った。 (4)保育環境整備や保育補助等について白高生のボランティアを受け入れた。白高生については、保育参観や、灯籠の描画作業で、幼児と交流をもった。9月の年長児園外保育の引率補助として大学生3名のアルバイト雇用を行った。以上を通して、学生・生徒の保育経験の充実に貢献した。
---------------------------------	--	---	----------	---

2. 研究活動の推進

施策名	中期計画の全体像	2024年度(中期計画1年目)の達成目標	年間評価	2024年度(中期計画1年目)の達成状況(総括)
(1)先進的な幼児教育の研究の推進	・子ども自ら遊び、探究と協働を深める幼児教育のカリキュラムを開発し、実施する。・文部科学省研究開発学校として、小平第一小学校とともに、幼小一体的なカリキュラム「生活ひろば」を開発する。・公開保育研究会の開催や、研究報告の刊行を行い、研究成果を公表する。	①毎月、園内研究会や合同カリキュラム会議等を実施し、子どもの育ちと保育のありようについて協議し、実践研究やカリキュラム開発を推進する。②公開保育研究会の開催などを通して研究成果を公表したり、他園を参観したりして、他園の保育者等との交流を図る。③文部科学省研究開発学校として、幼小一体的なカリキュラム「生活ひろば」を年間通して、実践を試行する。	S	(1)園内研究会を10回、合同カリキュラム会議を11回実施し、子どもの育ちと保育のありようについて協議し、実践研究やカリキュラム開発を推進した。 (2)6月に「探究」を自律的に深化させる」をテーマに公開保育研究会を開催し、研究の成果発表と交流を行った。2月に、研究開発学校に指定されている国立大学附属小学校の参観を5名が行った。小平一小の研究授業を6回参観し、協議に参加した。 (3)文部科学省研究開発学校として、研究開発委員会9回、幼小合同研究会6回、運営指導委員会2回、文科省実地調査1回、交流活動2回を開催し、幼小一体的なカリキュラム「生活ひろば」の開発を進めている。

(白梅学園大学附属白梅幼稚園)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

(2)研究における大学・短大との連携・協力の強化	・大学・短大の教員や学生に研究の場を提供し、学術研究の成果の還元を受けるとともに、本園の研究への支援を受けるなど、幼児教育に関する研究を相互に高めあう。	①大学・短大の研究・調査に協力し、その成果についてフィードバックを受ける。 ②幼稚園が推進する研究について、大学・短大の教員から指導・助言や援助を受けてさらなる充実と改善を図る。 ③大学と幼児教育懇談会を開催し、幼稚園の課題や、大学・短大の教育・研究の受け入れなどについて検討を行う。	B	(1)大学・短大の研究・調査に2件協力した(1件は他大学)。 (2)幼稚園が推進する研究について、6月の公開保育研究会を開き、大学・短大の教員の参加や指導・助言を受けて、さらなる充実と改善を図った。 (3)園内の体制が整い、幼児教育懇談会に検討依頼を行う案件はなかった。
3. 学生・生徒・園児支援の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024年度(中期計画1年目)の達成目標	年間評価	2024年度(中期計画1年目)の達成状況(総括)
(1)園生活において支援を要する子どもの育ちの保障	(該当なし)	①小平市等の巡回相談を活用し、支援を要する子どもの育ちに関して助言を受け、保育や子ども理解に活かす。 ②クラスの状況に応じて保育補助者を配置し保育の充実を図り、クラスの子どもたちの集団かつ個の育ちを促す。	A	(1)小平市の巡回相談や就学支援のための訪問などを7回受け、支援を要する子どもの育ちに関して助言を受け、保育や子ども理解に活かした。 (2)各クラスに保育補助者1名を配置し保育の充実を図った。遊びや生活の状況に応じて個別支援を行い、子どもたちの集団と個の育ちを促した。
(2)預かり保育の充実	・預かり保育において、安定的な受け入れを行い、保育内容の充実を図る。	①預かり保育について、随時、環境の見直しと内容の工夫を行い、長期休業中を含め通年で実施する。 ②おやつについて、子どもに応じて過不足のないよう、準備する。 ③各種手続きについて、保護者が円滑に行えているか、点検し、改善を図る。	A	(1)預かり保育について、環境の見直しと内容の工夫を行い、長期休業中を含め実施した。 (2)おやつについて、年齢に応じて過不足のないよう、内容と量を準備した。 (3)各種手続きについて、保護者が円滑に行えているか、点検し、順調であることを確認した。
(3)保護者の子育てを「エンカレッジ」する支援の実施	・保護者による各種活動の支援や相談機能の充実を図り、園児の健やかな成長を支える。	①保護者対象の講座を開催する。 ②梅の実会や保護者によるサークル活動、保育参加活動などの保護者活動を支援する。	A	(1)保護者を対象として、6月に「預かり保育：にじ組での生活」をテーマとする白梅講座を開催した。14名の参加者があった。10月に「子どもの性を考える」(講師：Hope 助産院)をテーマとする「子どもと親を考える講座」を開催した。50名の参加者があった。教員研修として、動画を教員(本務・非常勤とも)に配信した。 (2)梅の実会における各種活動や保護者活動を支援した。こま回しのパフォーマンスや、うめのみまつり、ふだんぎコンサート、わらべうたの親子活動など保育と連携する活動も行われた。えほんサークルは、園庭開放時に読み聞かせを行うなど、園の事業への協力もあった。

(白梅学園大学附属白梅幼稚園)

【年間評価 (成果)】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「-」=評価不可

(4)各種支援における大学・短大との連携・協力の強化	・教員研修や保護者支援、発達・子育ての相談・支援等、よりよい教育を支える諸活動について、連携と協力を図る。	①大学の発達・教育相談室や専門領域の教員と連携して、子育てや発達の相談に対応する。	A	(1)大学の発達・教育相談室と連携し、支援を要する幼児についての情報共有や、発達の相談に対応した。
----------------------------	---	---	---	---

4. 学生・生徒・園児の確保

施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1)未就園児保育(2歳児クラス)の実質化と充実	・未就園児クラス『びよびよ』での保育を充実させ、保護者による本園の保育への理解を深化させ、入園後の円滑な生活の実現を図る。	①開講期を見直し、5月～10月を前期、11月～3月を後期とし、後期においては入園後の保育との接続を図る。 ②2歳児クラスについて週1クラス(月曜～金曜の各曜日クラス)と週2クラス(月木クラス、火金クラス)を開室し、内容の充実を図る。 ③いずれの曜日も、自家用車による通園を可能とし、子育ての負担軽減に寄与すると共に、2歳児クラス利用を促進する。 ④2歳児クラスの保護者には、幼稚園主催の講座への参加を可能とするなど、子育て等に関する相談に対応する。	A	(1)開講期を見直し、5月～10月を前期、11月～3月を後期としそれぞれ各曜日12回ずつ、年間延べ120回開室した。後期は11月～3月とし、2025年度本園入園者を利用者とした。 (2)2歳児クラスの後期において、週1クラスと週2クラスに加え、新たに週3クラスと週4クラスを設置した。大学の中庭に出かけて親子活動を加えるなど内容の充実を図ったほか、こどもがつくる世界(作品展)で描画を展示したり、入園準備を進めるなど、3年保育との接続を図った。 (3)いずれの曜日も、自家用車による通園を可能とし、子育ての負担軽減に寄与すると共に、2歳児クラス利用を促進した。各曜日3～5台の利用がある。 (4)2歳児クラスの保護者には、幼稚園主催の子どもと親を考える講座への参加を可能とした。

（白梅学園大学附属白梅幼稚園）

【年間評価（成果）】 S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「－」=評価不可

(2) 募集対策の強化	・園児募集の課題について、変化する諸状況や諸環境をふまえて明確化し、都度、対応を図る。 ・メディアの特性を活かして、募集広報を行う。	①入園説明会の構成を工夫し、参加者の十分な理解を促し、疑問に丁寧に応える。 ②入園説明会における資料提示を工夫し、SNSを活用して随時配信するなど、園への関心の継続やホームページの閲覧を誘う。 ③園庭開放やお話し会、あそぼう会等、未就園児対象の企画と連動して、広報の強化を図る。 ④園のパンフレットやチラシなどの紙媒体や、Webサイトの随時更新、SNSの随時配信、口コミなどを組み合わせて広報を行う。	A (1) 入園説明会を年間で5回開催した。いずれの回も在園児の保護者による広報ボランティアの導入と協力を得て、入園後の実際や、参観者への疑問に具体的な回答を可能にした。このほかに2025年度から開設する満3歳児保育等の説明会と《びびよ》体験会を2回開催した。 (2) 入園説明会における資料提示において「白梅ならではの」と題して本園の特徴を「白梅の保育」「ライフスタイルに応じた子育て支援」「大学との連携・協力」を明確に示す工夫を行った。特に「子育て支援」に関して「選べる」をキーワードにたて、保護者のライフスタイルの変化に対応しやすいことを広報した。また、園のブログやInstagramを導入し、LINE公式アカウントを含むSNSを活用して、随時情報を配信する体制を整えた。SNSのQRコードを配布するなど、園への関心の継続やホームページの閲覧への接続を図った。 (3) 園庭開放やお話し会、あそぼう会等、未就園児対象の企画の開催において、SNS等で事前案内と事後報告を行うなど積極的に広報を行った。また、これらの企画においてSNSのQRコードを配布するなど、園への関心が継続されるよう広報の強化を図った。 (4) 園のパンフレットやチラシを作成し、入園説明会などで配付するなど紙媒体の広報を行うと共に、Webサイトと各SNSの特性を活かして随時の更新や配信を行った。これらは、保護者が参加する民間の園紹介イベントに持参していただき、口コミでの広報も行った。
--------------------	---	--	--

5. 学園広報の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1)ネットワーク環境の活用による広報活動の充実	(該当なし)	①ホームページについて更新し、随時の情報配信によって園内外への広報を行う。 ②さくらシステムや SNS 等を利用して、在園児や未就園児の保護者等に幼稚園の現況やイベント等についてお知らせを行う。	B	(1)ホームページについて全面的にリニューアルを行った。ホームページでは、幼稚園の紹介のほか、園の事業やお知らせを中心に配信し、保育の様子については、ブログや Instagram によって、配信頻度を高めることとし、機能分化を図った。 (2)LINE 公式アカウントに加え、新たにブログと Instagram をたちあげ、随時、配信を行うようにした。これらの SNS やさくらメッセージ等を利用して、在園児や未就園児の保護者等に幼稚園の現況やイベント等についてお知らせを行った。
7. 生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1)未就園児を対象とする各種企画の実施	・地域における未就園児の親子を対象に園庭開放や諸企画を開催し、子育て支援に資する。	①2歳児クラスを開室して、未就園児保育を実施する。 ②園庭開放やおはなし会、あそぼう会、体験入園などの未就園児対象の企画を実施する。	A	(1)2歳児クラスを開室して、未就園児保育を実施した。年間 120 回の開室を行った。 (2)未就園児対象企画として、園庭開放を 10 回実施し、おはなし会とあそぼう会は計 9 回、体験入園を 1 回実施した。
(2)地域や近隣諸機関との交流の推進	・教育や研究、各種支援等において、自治体や諸施設、教育機関と連携・協力を行う。	①小平第一小学校と幼小一体的なカリキュラムの研究開発を行うほか、地域や近隣の諸施設、諸機関と連携・協力を行い、園児の活動を充実させ、健やかな生活の安定を図る。	A	(1)幼小一体的なカリキュラム「生活ひろば」について、地域の協力を得ながら小平第一小学校と二年次の研究開発を行った。白高の協力を得て、中央公園での灯りまつりに園児が描画した灯籠を展示した。武蔵野美術大学の卒業研究の調査を受け入れ、その成果についてフィードバックを受けた。
8. 卒業生との連携等の推進				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1)卒園生との交流	(該当なし)	①同窓会を開催し、卒園生や保護者 OB と交流を行い、園の課題を認識し、園の教育への支援を得る。 ②保育における特定の活動において、技術のある卒園生や保護者 OB に協力をいただく。	A	(1)9月に同窓会を開催し、卒園生 113 名の参加を得た。卒園生や保護者 OB と交流を行い、本園の教育のよさを評価する声が寄せられた。 (2)研究開発における年長児の味噌造りにおいて保護者 OB にご指導いただいた。

9. 働き方・仕事の仕方の見直し				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1)業務の再編と相互連携	・各種研修や諸会議を通し、保育者相互の意見交流を活性化させ、学びあう園組織を構築する。	①園の業務の透明化を行い、それぞれの業務の相互理解を深め、教職員間の連携協力を推進する。	A	(1)園の業務の見直しと再配分を通して、明確化と透明化を行った。総務部が学校評価を担当し、相談部は「子どもと親を考える講座」の企画・実施を担当することとした。園の内規として組織規則を定め、園の体制を見直し、組織の明確化を図った。2025 年 4 月 1 日より施行する。
10. 建学の精神の高揚				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1)園史や教育・研究実績、大学附属園としての機能をふまえたブランディング	・園史関係資料の保存・管理や、アーカイブ化、それらの資料を活用した研究を推進する。 ・大学附属園としての実績を含め、教育・研究・組織運営に関する年報を作成する。 ・ブランディングに関する検討を行い、園の将来像を見定める。	①大学・短大の教員、子ども学研究所と連携し、園史関係資料の収集を進め、園内の保存資料の整理とアーカイブ化を進める。 ②年報を作成し、教育・研究・組織運営の実績を取りまとめる。 ③園のランドデザインの中核で、ブランディングに関する検討を行う。	A	(1)大学の教員や子ども学研究所と連携し、園史関係資料のうち、口述著作物についてアーカイブ化を進めた。 (2)年度末に総括において、年次報告を行った。 (3)ブランディングについて「白梅ならではの」を掲げ、「白梅の保育」「ライフスタイルに応じた子育て支援」「大学との連携・協力」を柱として、検討を進めた。
14. ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1)教員組織の機能強化	・各種研修や諸会議を通し、保育者相互の意見交流を活性化させ、学びあう園組織を構築する。	①園務分掌や担当業務を明確化するとともに、相互の連絡・報告を緊密に行い、互いの業務の理解を深め、意思決定の迅速化を図り、透明性を高める。	A	(1)園務分掌や担当業務について、総務部が学校評価を担当し、相談部が「子どもと親を考える講座」の企画・実施を担当することとした。園の内規として組織規則を定め、園の体制を見直し、組織の明確化を図った。2025 年 4 月 1 日より施行する。
15. 管理運営（施設改修・更新・労務他）				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1)各種施設の改修	・遊びを誘発し、かつ、安全で衛生的であるように、保育構想に基づき、室内外の保育環境の最適化を図る。	①安全面や公衆衛生面、幼児の生活の場としての最適化の観点から、設備や施設、備品について改修や更新を図る。	A	(1)安全面や公衆衛生面、幼児の生活の場としての最適化の観点から、ままごとで使用する流し台、電子レンジ、冷蔵庫、年中の椅子を更新し、園児の昇降口の整備を行った。

【年間評価（成果）】S=目標以上の成果、A=目標達成、B=概ね目標通り、C=目標に未達、「－」=評価不可

16. 情報化教育/ICT				
施策名	中期計画の全体像	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成目標	年間評価	2024 年度(中期計画 1 年目)の達成状況(総括)
(1) ICT システムの十全な活用	・遊びを誘発し、かつ、安全で衛生的であるように、保育構想に基づき、室内外の保育環境の最適化を図る。	①さくらシステムについて、保護者との緊密な連絡や情報共有、諸活動の広報に活用する。 ②年中組、年長組にタブレットを配置し、保育場面において効果的な活用を図る。	A	(1) さくらシステムについて、保護者との緊密な連絡や情報共有、諸活動の広報に活用した。 (2) 年中組、年長組にタブレットを配置し、保育場面において効果的に活用した。 その他、コミュニティホールのプロジェクターと音声設備が設置され、懇談会や各種説明会等で活用した。

[IV]財務の概要

1. 決算の概要

当年度の資金収入は 33 億 8,400 万円、資金支出は 37 億 1,000 万円で単年度の資金収支差額は 3 億 2,600 万円の支出超過となった。事業活動収支では収入合計 28 億 6,900 万円に対して支出合計が 30 億円、基本金組入前当年度収支差額は 1 億 3,100 万円の支出超過となった。その内訳は、教育活動収支差額が 1 億 9,100 万円の支出超過、教育活動外収支差額が 400 万円の収入超過、教育活動ならびに教育活動外収支を合わせた経常収支差額は 1 億 8,700 万円の支出超過、特別収支差額は 5,600 万円の収入超過となった。

2024 年度は予算編成方針に基づき、学園全体で経費縮減に努め、教職員の賞与 1.5 か月削減等の財政再建策を実行したが、入学・入園者数の減少に伴う収入減、ICT 関連設備の集中整備や大学短大校舎トイレ大規模改修工事等の実施、大短新棟のための建築資金として減価償却引当特定資産へ 1 億 100 万円の繰入を行ったこと等により、2024 年度の収支は支出超過となった。

2. 収支状況

(1)事業活動収支

事業活動収支は、①教育活動収支、②教育活動外収支、③特別収支の 3 項目から構成されている。

① 教育活動収支

教育活動収支の「収入の部」では、主な収入である「学生生徒等納付金」は、入学者数の減少及び私立高等学校等授業料軽減助成金の所得制限撤廃に伴う助成金拡充の影響により予算比 1 億 7,300 万円減少し 16 億 4,100 万円となった。「手数料」は、受験者数減少による入学検定料の減少により、予算比 500 万円減少し 2,500 万円となった。「寄付金」では学生生徒の活動支援等へ多くのご寄付をいただき 1,500 万円となり予算比 700 万円増加した。「経常費等補助金」は 10 億 3,100 万円となり予算比 1 億 3,200 万円増加した。私立高等学校等授業料軽減助成金の所得制限撤廃に伴う助成金拡充による 1 億 1,800 万円の増加、及び高中幼部門の経常費補助金の増加によるものである。「付随事業収入」は 1,400 万円となり予算比 600 万円増加、「雑収入」は退職金に対する交付金増加に伴い、予算比 5,800 万円増加し 7,800 万円となった。「教育活動収入計」は、予算比 2,500 万円増加し 28 億 300 万円となった。

教育活動収支の「支出の部」では、「人件費」は退職者数増等に伴い予算比 2,000 万円増加の 20 億 1,000 万円となった。「教育研究経費」「管理経費」は、学園全体で経費縮減に努めたものの、ICT 関連設備の集中整備や大学短大校舎トイレ大規模改修工事等に伴う修繕費や手数料の増加があり、予算比 4,800 万円増加した。「教育活動収支差額」は、予算比 4,300 万円減少し 1 億 9,100 万円の支出超過となった。

② 教育活動外収支

「教育活動外収支」は、「収入の部」で「その他の受取利息・配当金」が予算比 200 万円増加となり、400 万円の収入超過となった。「教育活動収支差額」ならびに「教育活動外収支差額」を合わせた「経常収支差額」は予算比 4,100 万円減少の 1 億 8,700 万円の支出超過となった。

③ 特別収支

「特別収支」は、「収入の部」では、80周年記念事業募金が寄与し予算比100万円増加の6,200万円となった。「支出の部」では図書処分、備品棚卸し実施及び経年備品の計画処分により資産の除却600万円を計上した。経年備品の計画処分とは、過去1996年度～2004年度を取得年度とする固定資産・備品のうち、実在性が極めて乏しいと判断できる備品を2020年度より5年かけて計画的に除却処理をするものである。経常収支差額に特別収支差額を合わせた「基本金組入前当年度収支差額」は予算比4,600万円減少し、1億3,100万円の支出超過となった。

「基本金」は、第1号基本金に2億8,100万円、第3号基本金に10万円を組入れた。第1号基本金では、大学短大校舎トイレ大規模改修工事や第一大体育館空調機設置等に伴う建物組入1億4,100万円、ICT集中整備等に伴う備品組入1億5,000万円に経年備品の計画処分等による2,000万円の取崩しや備品棚卸し実施等における物品廃棄による取崩し600万円を行った。第2号基本金は計画変更により、当初予定した2億円の組入は行わず同額を減価償却引当特定資産へ留保し今後の計画に備えることとした。

この結果、基本金組入後の「当年度収支差額」は、4億1,300万円の支出超過となり、翌年度繰越収支差額は48億2,900万円の支出超過となった。

(2) 貸借対照表

① 資産の部

貸借対照表の「資産の部」では、備品の増加に伴い「有形固定資産」が対前年度末比8,100万円増加した。「特定資産」では将来の建物建築に備える減価償却引当特定資産を繰入れ、1億100万円増加し14億6,800万円となった。その結果「固定資産」は1億7,900万円増加し58億4,200万円となった。「流動資産」は、現金預金が3億2,600万円減少し6億5,700万円となった。

「固定資産」「流動資産」をあわせた「資産の部合計」では、対前年度末より1億5,300万円減少し、64億9,900万円となった。

④ 負債の部

「負債の部」は、借入金が1,900万円減少し12億2,700万円となった。

「基本金」は101億100万円、「繰越収支差額」はマイナス48億2,900万円となり、両者を合わせた「純資産の部合計」は1億3,100万円減少し52億7,200万円となった。

(3) 資金収支

資金収支計算書は、2024年度を通じて行った諸活動に対応するすべての資金の動きを網羅している。「収入の部」では、当年度の収入は33億8,400万円となり、収入合計では、前年度繰越支払資金の8億7,200万円を加え、42億5,600万円となった。

「支出の部」では、当年度支出は37億1,000万円となり、翌年度繰越支払資金は5億4,600万円となった。

活動区分資金収支計算書は、資金収支計算書に記載される資金収入及び資金支出の決算額を①教育活動、②施設整備等活動、③その他の活動に区分して記載する。

① 教育活動

教育活動による資金収支について、学納金・経常費補助金等の「教育活動資金収入計」は28億300万円、人件費・教育研究経費・管理経費の「教育活動資金支出計」は27億8,300万円となり、差引き2,000万円の収入超過となった。ここから前受金、未収入金等調整勘定を差引きし、教育活動資金収支差額は2,400万円の収入超過となった。

② 施設整備等活動

施設整備等活動による資金収支について、「施設整備等活動資金収入計」は5,400万円となった。「施設設備等活動資金支出計」は、3億8,100万円となった。差引きは3億2,700万円の支出超過となり、ここから、未収入金等の調整勘定を差引きし、施設整備等活動資金収支差額は3億3,400万円の支出超過となった。

このうち、減価償却引当特定資産繰入支出1億100万円は、財政再建策に基づく賞与の見直し等分であり、大短新棟のための建築資金として繰入れ分と取崩し分の差額を繰り入れたものである。繰入れ分は計2億7,000万円であり内訳は第2号基本金の計画変更による2億円、創立80周年記念事業募金5,500万円である。取崩し分は計1億6,900万円であり内訳は大学短大校舎トイレ大規模改修工事費1億1,200万円、第一第体育館空調機設置工事費1,400万円、大短新棟建築計画の見直しに伴う設計業務費用等の精算金4,300万円、80周年記念事業募金事務費用100万円である。

③ その他の活動

その他の活動による資金収支について、貸付金回収や利息等の収入計は5億1,800万円、借入金返済や貸付金支払等の支出計は5億3,700万円となり、その他の活動資金収支差額は1,600万円の支出超過となった。退職給与引当特定資産繰入支出65,000円は、有価証券として保有していた退職給与引当特定資産について固定有価証券処分差額が生じたため現預金から補填したものである。

上記より、当年度の支払資金の減少額は3億2,600万円となり、前年度繰越支払資金から差引くと、翌年度繰越支払資金は5億4,600万円となった。

(4) その他

① 部門別 施設設備関連支出主な一覧（100万円未満四捨五入）

部門	施設設備・ICT（重点予算以外）	予算	決算	差異
大学・短大	F棟トイレ改修	300万円		300万円
	基幹系システムカスタマイズ(授業支援システム・大短WEB出願システム)	300万円	200万円	100万円
	I棟3階空調機更新工事		300万	▲300万円
	B棟3階講義室AVシステム改修		700万	▲700万円
白高	学園貸与ノートPCリプレイス	1,100万円	1,200万円	▲100万円

清修	ガス空調機入替（リース） 学園貸与ノートPCリプレイス	1,000 万円	1,000 万円	
	K棟ホワイトボード改修工事		100 万円	▲100 万円
白高・ 清修	基幹系システムカスタマイズ（入試システム・教務システム）	100 万円	100 万円	
共通	学内 LAN 再構築	2,800 万	6,000 万	▲3,200 万
幼稚園	オーニング設置 コミュニティホールAV整備 学園貸与ノートPCリプレイス	700 万円	900 万円	▲200 万
学園 共通	K棟屋上防水工事 防火設備改修等 仮想サーバ基盤環境整備 学園ネットワークの再構築 統合認証基盤整備 学園貸与ノートPC筐体保護等 グループウェア等整備 寄付統合管理システム更新	1 億 600 万円	1 億 900 万円	▲300 万円
	合計	1 億 6,900 万円	2 億 1,700 万円	▲4,500 万 円

② 減価償却特定資産取崩し一覧（100 万円未満四捨五入）

部門	内容	予算	決算	差異
大学 短大	大学短大校舎 トイレ大規模改修工事		1 億 1,200 万 円	▲1 億 1,200 万円
	第一大体育館空調機設置工事		1,400 万円	▲1,400 万 円
学園 全体	大短新棟コンストラクションマネジメント業務委託料	1,200 万円	600 万円	600 万円
	建設会社への設計業務料	6,100 万円	3,600 万円	2,500 万 円
	80 周年募金室 費用		100 万円	100 万円
	合計	7,300 万円	1 億 6,900 万 円	▲9,600 万 円

③ 寄付金一覧

寄付内容	金額	備考
施設設備、教育研究用の機器の整備・拡充	281 万円	
白梅学園未来基金	11 万円	累積額：7,158 万円
特別寄付 創立 80 周年記念事業募金	5,529 万円	白梅学園大学短期大学同窓会 5,000 万円 白梅学園高等学校同窓会 300 万円
特別寄付 学生募集活動支援	200 万円	理事長 井原徹
教職員褒章準備基金	91 万円	理事長 井原徹
杉原千畝講演会準備費用	20 万円	理事長 井原徹
白梅学園高等学校ベビーシート設置費用	31 万円	白梅学園高等学校 同窓会
白梅祭・卒業祝賀会支援	150 万円	白梅学園大学短期大学 後援会
白梅学園高等学校吹奏楽部活動支援	134 万円	白梅高等学校 PTA 他
白梅学園高等学校ハンドボール部活動支援	20 万円	理事長 井原徹・学外理事
フードパントリー運営支援等	21 万円	理事長 井原徹 ・学外理事・学園関係者
清修鉄道模型への活動支援	68 万円	理事長 井原徹 ・学外理事・学園関係者
学生生徒への活動支援・部活動支援 ・園児保育充実支援	62 万円	理事長 井原徹 他
合計	6,618 万円	

④ 大短新棟のための建築資金 年度末累計額（100 万円未満四捨五入）

年度	繰入額	取崩額	年度末 累計額 (第 2 号基本金含)	備考
2017 年度決算	1 億円	—	1 億円	第 2 号基本金へ繰入
2018 年度決算	1 億円	—	2 億円	第 2 号基本金へ繰入
2019 年度決算	1,400 万円	—	2 億 1,400 万円	減価償却引当特定資産へ繰入
2020 年度決算	1 億 2,300 万円	—	3 億 3,700 万円	減価償却引当特定資産へ繰入
2021 年度決算	1 億 7,700 万円	2,800 万円※	4 億 8,600 万円	減価償却引当特定資産へ繰入
2022 年度決算	2 億 1,200 万円	1,700 万円※	6 億 8,100 万円	減価償却引当特定資産へ繰入
2023 年度決算	1 億 5,000 万円 9,400 万円	—	9 億 2,500 万円	第 2 号基本金へ繰入 減価償却引当特定資産へ繰入
2024 年度決算	2 億 7,000 万円	1 億 6,900 万円 ※	10 億 2,600 万円	減価償却引当特定資産へ繰入 (差引 1 億 100 万円を繰入)

※大短新棟のための費用／教育研究環境の整備費用／明豊ファシリティワークス等への支払

3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

- (1) 上記1のとおり、2024年度決算は、事業活動の中心である教育活動収支差額は、1億9,100万円の支出超過（前年度比▲1億9,700万円）となり、基本金組入前当年度収支差額は1億3,100万円の支出超過（前年度比▲1億6,600万円）となった。2023年度以降の入学・入園者数の減少に伴う収入減の影響と、ICT関連設備の集中整備や大学短大校舎トイレ大規模改修工事等を実施したことにより、大幅な支出超過となった。
- (2) 財政再建策による人件費の見直しとして2022年度から賞与1.5か月の見直しを実施している。さらに、2025年度予算編成においては、各部門経費の10%削減、退職教職員の後任不補充、役員の賞与の削減（任意）などの措置を行い支出削減を図った。今後も厳しい財政状況が続く見通しであり、その他の諸手当、研究・研修費等について、各部門と調整を行いながら2025年度中に見直しを行い、さらなる支出削減に取り組むこととしている。2026年度以降は、全部門で入学・入園者数の回復を早急に図っていくとともに、実際の入学者数を踏まえ、必要な場合には更なる支出の削減を検討・実施する。

4. 財務諸表

(1) 資金収支計算書

(単位：百万円)

収入の部			
科目	2024年度 予算	2024年度 決算	差異
学生生徒等納付金収入	1,814	1,641	174
手数料収入	29	25	5
寄付金収入	58	66	△ 9
補助金収入	910	1,034	△ 124
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	7	14	△ 6
受取利息・配当金収入	2	4	△ 2
雑収入	20	78	△ 58
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	322	309	13
その他の収入	647	583	64
資金収入調整勘定	△ 331	△ 368	37
当年度資金収入 ①	3,478	3,384	93
前年度繰越支払資金	977	872	105
収入の部合計	4,454	4,256	198

前年度比	
2023年度 決算	増減
1,926	△ 286
26	△ 1
63	3
918	116
0	0
15	△ 1
3	1
48	30
0	0
300	9
743	△ 161
△ 432	63
3,611	△ 226
967	△ 96
4,578	△ 322

支出の部			
科目	2024年度 予算	2024年度 決算	差異
人件費支出	1,956	2,000	△ 44
教育研究経費支出	623	629	△ 6
管理経費支出	112	154	△ 42
借入金等利息支出	0	0	0
借入金返済支出	19	19	0
施設関係支出	61	125	△ 65
設備関係支出	104	155	△ 51
資産運用支出	267	102	166
その他の支出	599	594	5
資金支出調整勘定	△ 61	△ 67	6
当年度資金支出 ②	3,680	3,710	△ 30
翌年度繰越支払資金	774	546	228
支出の部合計	4,454	4,256	198

前年度比	
2023年度 決算	増減
1,949	51
639	△ 10
147	7
0	△ 0
23	△ 5
8	117
60	95
251	△ 150
704	△ 110
△ 76	9
3,706	4
872	△ 326
4,578	△ 322

当年度資金収支 ①－②	△ 202	△ 326	124
-------------	-------	-------	-----

△ 96	△ 230
------	-------

(2) 活動区分資金収支計算書

収入の部			
科目	2024年度 予算	2024年度 決算	差異
教育活動による資金収支			
学生生徒等納付金収入	1,814	1,640	174
手数料収入	29	25	5
特別寄付金収入	3	12	△ 9
一般寄付金収入	5	3	2
補助金収入	900	1,031	△ 132
付随事業収入	7	14	△ 6
雑収入	20	78	△ 58
教育活動資金収入計	2,778	2,803	△ 26
人件費支出	1,956	2,000	△ 44
教育研究経費支出	623	629	△ 6
管理経費支出	112	154	△ 42
教育活動資金支出計	2,692	2,783	△ 91
差引	86	20	66
調整勘定等	28	4	24
教育活動資金収支差額	114	24	90
施設整備等活動による資金収支			
施設設備寄付金収入	50	52	△ 2
施設設備補助金収入	10	2	8
施設設備売却収入	0	0	0
減価償却引当特定資産取崩収入	73	0	73
施設整備等活動収入計	133	54	79
施設関係支出	61	125	△ 65
設備関係支出	104	155	△ 51
第2号基本金引当特定資産繰入支出	200	0	200
減価償却引当特定資産繰入支出	65	101	△ 36
施設整備等活動資金支出計	429	381	48
差引	△ 296	△ 327	31
調整勘定等	△ 7	△ 7	△ 0
施設整備等活動資金収支差額	△ 303	△ 334	31
小計 (教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△ 190	△ 310	120
その他の活動による資金収支			
借入金等収入	0	0	0
有価証券売却収入	0	0	0
奨学金引当特定資産取崩収入	0	0	0
貸付金回収収入	6	7	△ 1
預り金受入収入	500	500	△ 0
立替金回収収入	30	6	24
仮払金回収収入	1	1	0
敷金回収収入	0	0	0
小計	537	513	24
受取利息・配当金収入	2	4	△ 2
その他の活動資金収入計	539	517	22
借入金等返済支出	19	19	0
第3号基本金引当特定資産繰入繰入資金	2	0	2
退職給与引当特定資産繰入支出	0	0	0
貸付金支払支出	0	1	△ 1
預り金支払支出	500	514	△ 14
立替金支払支出	30	3	27
仮払金支払支出	1	1	0
小計	552	537	15
借入金等利息支払	0	0	0
その他の活動資金支出計	553	537	16
差引	△ 12	△ 19	7
調整勘定等	0	4	△ 4
その他の活動活動資金収支差額	△ 12	△ 16	3
支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)	△ 202	△ 326	123
前年度繰越支払資金	977	872	105
翌年度繰越支払資金	774	546	227

(単位：百万円)

前年度比	
2023年度 決算	増減
1,926	△ 286
26	△ 1
29	△ 17
2	1
918	114
15	△ 1
48	30
2,964	△ 160
1,949	51
639	△ 10
147	7
2,736	45
228	△ 208
△ 6	10
222	△ 198
32	20
0	2
0	0
18	△ 18
49	5
8	117
60	95
150	△ 150
96	5
314	66
△ 265	△ 63
△ 11	4
△ 275	△ 59
△ 53	△ 256
0	0
0	0
0	0
9	△ 2
521	△ 20
81	△ 76
1	△ 0
0	0
612	△ 98
3	1
615	△ 97
23	△ 5
0	0
5	△ 5
1	△ 0
547	△ 33
81	△ 78
1	△ 0
657	△ 121
0	△ 0
658	△ 122
△ 43	24
0	3
△ 43	27
△ 95	△ 231
967	△ 96
873	△ 327

(3) 事業活動収支計算書

(単位：百万円)

				前年度比	
科目				2023年度 決算	増減
教育活動収支	事業活動収入の部				
	学生生徒等納付金	1,814	1,641	174	1,926 △ 286
	手数料	29	25	5	26 △ 1
	寄付金	8	15	△ 7	31 △ 16
	経常費等補助金	900	1,031	△ 132	918 114
	付随事業収入	7	14	△ 6	15 △ 1
	雑収入	20	78	△ 58	48 30
	教育活動収入計	2,778	2,803	△ 25	2,964 △ 161
	事業活動支出の部				
	人件費	1,990	2,010	△ 20	1,972 38
教育活動外収支	教育研究経費	817	825	△ 7	832 △ 8
	管理経費	119	160	△ 41	154 6
	徴収不能額等	0	0	0	0 0
	教育活動支出計	2,926	2,994	△ 68	2,958 36
	教育活動収支差額	△ 148	△ 191	43	6 △ 197
	事業活動収入の部				
	受取利息・配当金	2	4	△ 2	3 1
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0 0
	教育活動外収入計	2	4	△ 2	3 1
	事業活動支出の部				
	借入金等利息	0	0	0	0 △ 0
	その他の教育活動活動外支出	0	0	0	0 0
	教育活動外支出計	0	0	0	0 △ 0
	教育活動外収支差額	2	4	△ 2	3 1
経常収支差額				△ 146	△ 187 41
特別収支	事業活動収入の部				
	資産売却差額	0	0	0	0 0
	その他の特別収入	61	62	△ 1	36 27
	特別収入計	61	62	△ 1	36 27
	事業活動支出の部				
	資産処分差額	0	6	△ 6	9 △ 3
	その他の特別支出	0	0	0	0 0
	特別支出計	0	6	△ 6	9 △ 3
	特別収支差額	61	56	5	27 29
	基本金組入前当年度収支差額	△ 85	△ 131	46	35 △ 166
基本金組入額合計				△ 328	△ 282 △ 46
当年度収支差額				△ 413	△ 413 △ 0
前年度繰越収支差額				△ 4,431	△ 4,417 △ 15
翌年度繰越収支差額				△ 4,844	△ 4,829 △ 15
(参考)					
事業活動収入計				2,841	2,869 △ 28
事業活動支出計				2,926	3,000 △ 74
					3,003 △ 133
					2,967 33

(4) 貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部			
科目	2024年度末	2023年度末	増減
固定資産	5,843	5,664	179
有形固定資産	4,362	4,281	81
土地	430	430	0
建物	2,826	2,843	△ 17
構築物	42	47	△ 5
教育研究用機器備品	414	320	93
管理用機器備品	11	5	6
図書	640	635	4
特定資産	1,468	1,367	102
第2号基本金引当特定資産	350	350	0
第3号基本金引当特定資産	92	92	0
退職給与引当特定資産	347	347	0
減価償却引当特定資産	678	577	101
奨学引当特定資産	1	1	0
その他の固定資産	12	16	△ 4
敷金	0	0	△ 0
電話加入権	2	2	0
長期貸付金	10	14	△ 4
流動資産	658	989	△ 331
現金預金	546	872	△ 326
未収入金	68	69	△ 1
短期貸付金	6	8	△ 2
有価証券	34	34	0
前払金	0	0	△ 0
立替金	2	5	△ 3
収入の部合計	6,499	6,652	△ 152

負債の部			
科目	2024年度末	2023年度末	増減
固定負債	750	745	5
長期借入金	5	11	△ 5
退職給与引当金	745	734	10
流動負債	477	504	△ 27
短期借入金	5	19	△ 13
未払金	67	76	△ 9
前受金	309	300	9
預り金	96	110	△ 13
負債の部合計	1,227	1,249	△ 22

純資産の部			
科目	2024年度末	2023年度末	増減
基本金	10,101	9,820	282
第1号基本金	9,453	9,171	282
第2号基本金	350	350	0
第3号基本金	92	92	0
第4号基本金	207	207	0
繰越収支差額	△ 4,829	△ 4,417	△ 413
翌年度繰越収支差額	△ 4,829	△ 4,417	△ 413
純資産の部合計	5,272	5,403	△ 131
負債及び純資産の部合計	6,499	6,652	△ 153

5. 財務状況の推移等

(1) 資金収支計算書

(単位：百万円)

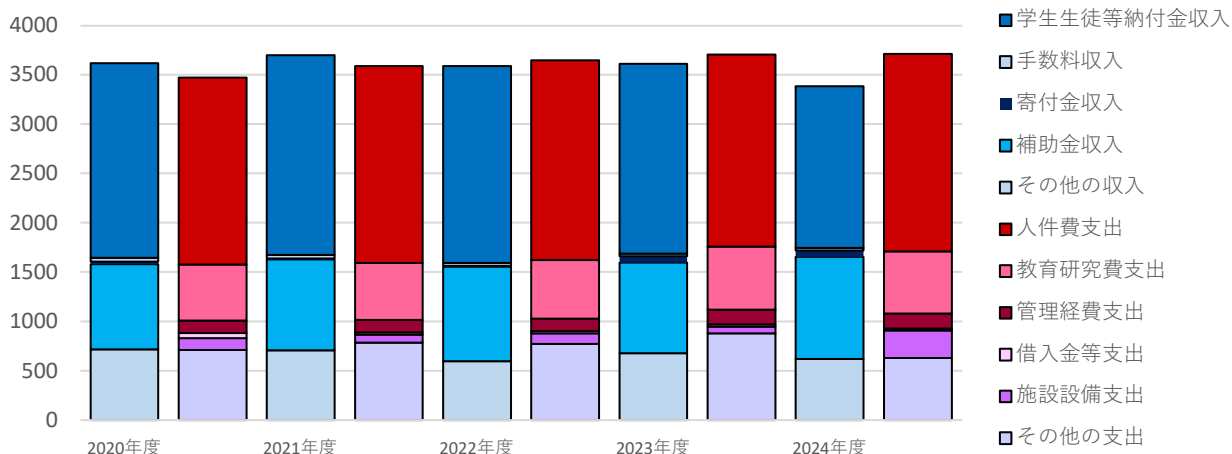
収入の部	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
学生生徒等納付金収入	1,973	2,024	1,995	1,926	1,641
手数料収入	38	35	30	26	25
寄付金収入	26	10	11	63	66
補助金収入	864	921	955	918	1,034
資産売却収入	50	11	2	0	0
付随事業・収益事業収入	10	16	13	15	14
受取利息・配当金収入	2	2	3	3	4
雑収入	43	72	107	48	78
借入金等収入	2	1	0	0	0
前受金収入	447	428	362	300	309
その他の収入	681	717	654	743	583
資金収入調整勘定	△ 520	△ 540	△ 543	△ 432	△ 368
(当年度資金収入) ①	3,616	3,697	3,590	3,611	3,384
前年度繰越支払資金	771	916	1,025	967	872
純資産の部合計	4,387	4,613	4,614	4,578	4,256

支出の部	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
人件費支出	1,896	1,996	2,025	1,949	2,000
教育研究費支出	569	577	593	639	629
管理経費支出	124	127	127	147	154
借入金等利息支出	1	1	0	0	0
借入金返済支出	52	23	22	23	19
施設関係支出	7	32	69	8	125
設備関係支出	114	49	38	60	155
資産運用支出	202	204	238	251	102
その他の支出	544	629	611	704	594
資金支出調整勘定	△ 37	△ 49	△ 75	△ 76	△ 67
(当年度資金収入) ②	3,470	3,588	3,646	3,706	3,710
翌年度繰越支払資金	916	1,025	967	872	546
純資産の部合計	4,386	4,613	4,614	4,578	4,256

当年度資金収支①-②	146	108	△ 56	△ 96	△ 326
-------------------	------------	------------	-------------	-------------	--------------

(単位：百万円)

資金収支の推移



(2) 事業活動収支計算書

(単位：百万円)

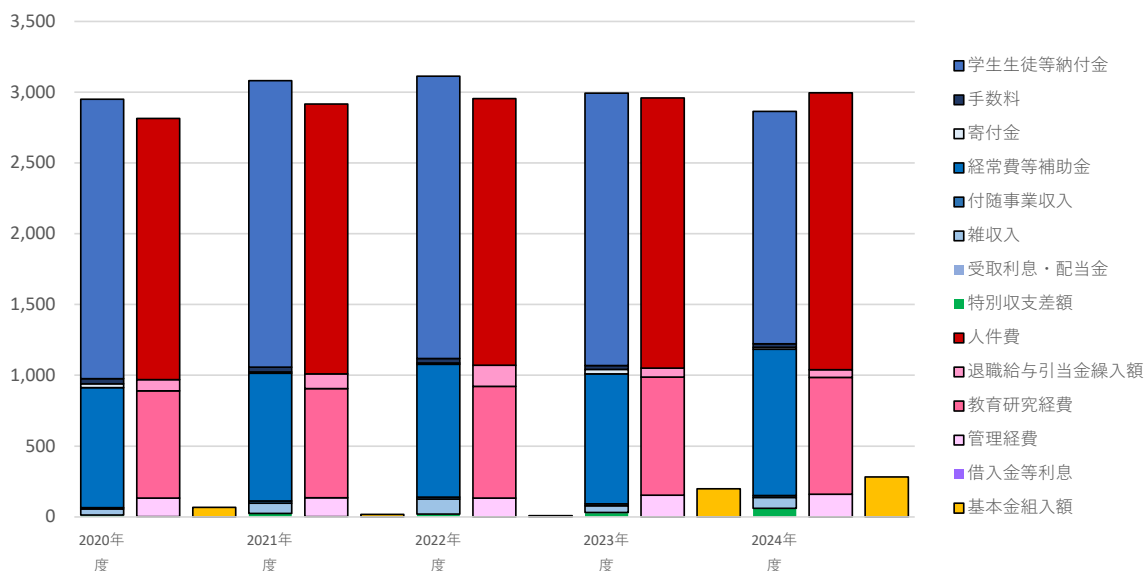
教育活動収支		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
収入	学生生徒等納付金	1,973	2,024	1,995	1,926	1,641
	手数料	38	35	30	26	25
	寄付金	26	9	9	31	15
	経常費等補助金	847	902	940	918	1,031
	付随事業収入	10	16	13	15	14
	雑収入	43	72	107	48	78
	受取利息・配当金	2	2	2	3	4
支出	人件費（退職給与引当金繰入額を除く）	1,844	1,907	1,882	1,907	1,955
	退職給与引当金繰入額	79	103	150	65	56
	教育研究経費	759	771	788	832	825
	（うち減価償却費）	(190)	(194)	(195)	(193)	(195)
	管理経費	131	134	133	154	160
	（うち減価償却費）	(7)	(7)	(7)	(7)	(6)
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	借入金等利息	1	1	0	0	0
経常収支差額		125	142	144	9	△ 187

特別収支		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
収入	資産売却差額	0	5	0	0	0
	施設設備寄付金	1	1	2	32	52
	現物寄付	1	1	1	4	8
	施設設備補助金	18	19	15	0	2
	過年度修正額	0	0	0	0	0
	特別収入計	20	25	18	36	62
支出	資産処分差額	8	3	2	9	6
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出計	8	3	2	9	6
特別収支差額		12	22	15	27	56

基本金組入前当年度収支差額	134	167	159	35	△ 131
基本金組入額合計	△ 68	△ 17	△ 9	△ 199	△ 282
当年度収支差額	66	150	151	△ 164	△ 413

前年度繰越収支差額	△ 4,619	△ 4,553	△ 4,402	△ 4,253	△ 4,417
基本金取崩額	0	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△ 4,553	△ 4,403	△ 4,252	△ 4,417	△ 4,829

事業活動収支の推移



(3) 貸借対照表

(単位：百万円)

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
固定資産	5,429	5,469	5,576	5,664	5,842
有形固定資産	4,635	4,513	4,418	4,281	4,362
特定資産	751	925	1,133	1,367	1,468
第2号基本金特定資産	200	200	200	350	350
第3号基本金特定資産	89	91	92	92	92
退職給与引当特定資産	302	322	342	347	347
減価償却引当特定資産	157	311	499	577	678
奨学引当特定資産	3	1	1	1	1
その他の固定資産	43	32	24	16	12
流動資産	1,047	1,168	1,130	989	657
資産の部合計	6,476	6,638	6,705	6,652	6,499
固定負債	763	756	741	745	750
長期借入金	73	52	29	11	5
退職給与引当金	690	704	711	734	745
流動負債	672	673	596	504	477
短期借入金	23	22	23	19	5
未払金	37	49	75	76	67
前受金	447	428	362	300	309
預り金	165	174	136	110	96
負債の部合計	1,435	1,428	1,336	1,249	1,227
基本金	9,595	9,611	9,621	9,820	10,101
第1号基本金	9,099	9,113	9,122	9,171	9,453
第2号基本金	200	200	200	350	350
第3号基本金	89	91	92	92	92
第4号基本金	207	207	207	207	207
繰越収支差額	△ 4,553	△ 4,402	△ 4,253	△ 4,417	△ 4,829
純資産の部合計	5,041	5,210	5,368	5,403	5,272

(単位：百万円)

貸借対照表の推移

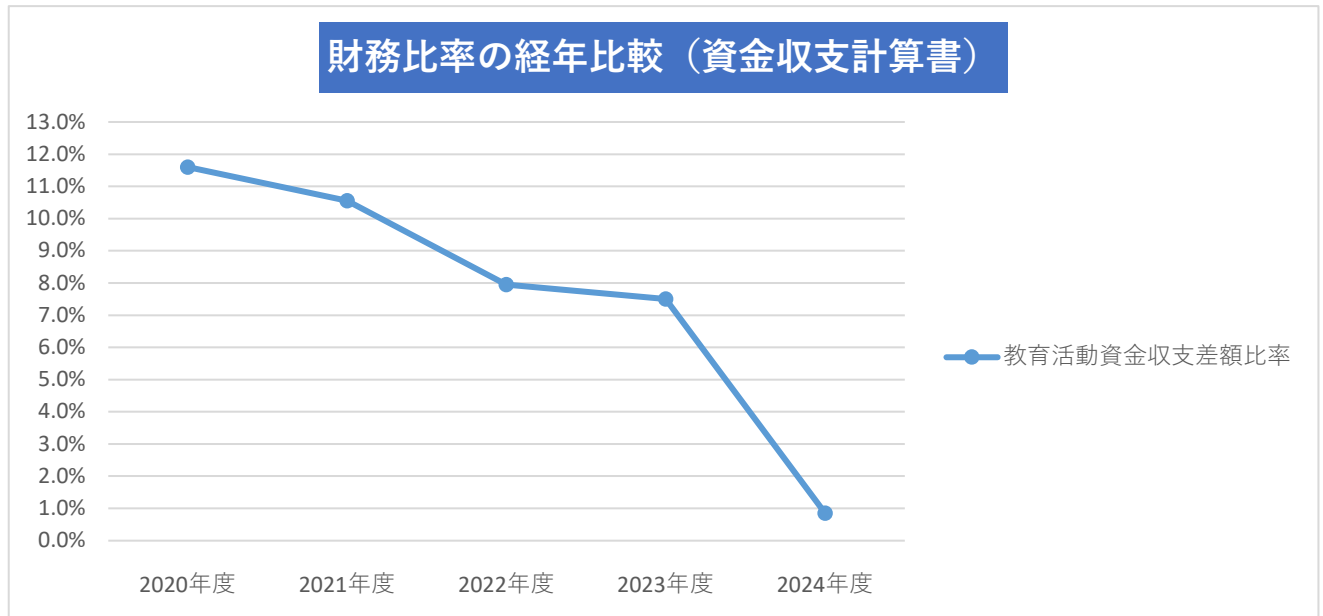


6. 主な財務比率比較

(1) 資金収支計算書の比率

(単位：％)

比率名	算出方法	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	11.6%	10.5%	7.9%	7.5%	0.9%

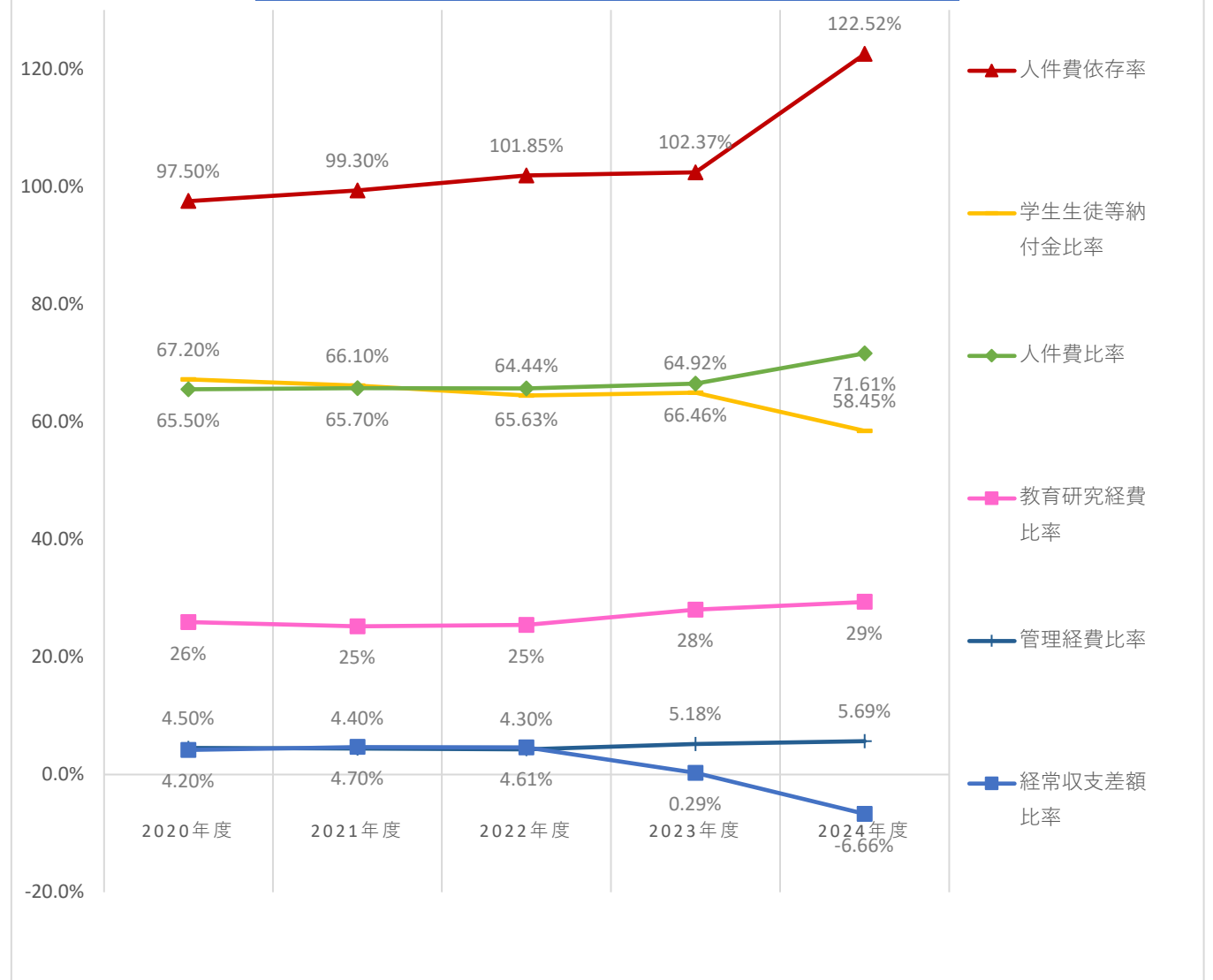


(2) 事業活動収支の比率

(単位：％)

比率名	算出方法	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	65.50%	65.70%	65.63%	66.46%	71.61%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	97.50%	99.30%	101.85%	102.37%	122.52%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	25.90%	25.20%	25.44%	28.06%	29.37%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	4.50%	4.40%	4.30%	5.18%	5.69%
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	4.50%	5.40%	5.11%	1.17%	-4.57%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	67.20%	66.10%	64.44%	64.92%	58.45%
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	4.20%	4.70%	4.61%	0.29%	-6.66%

財務比率の経年推移（事業活動収支）

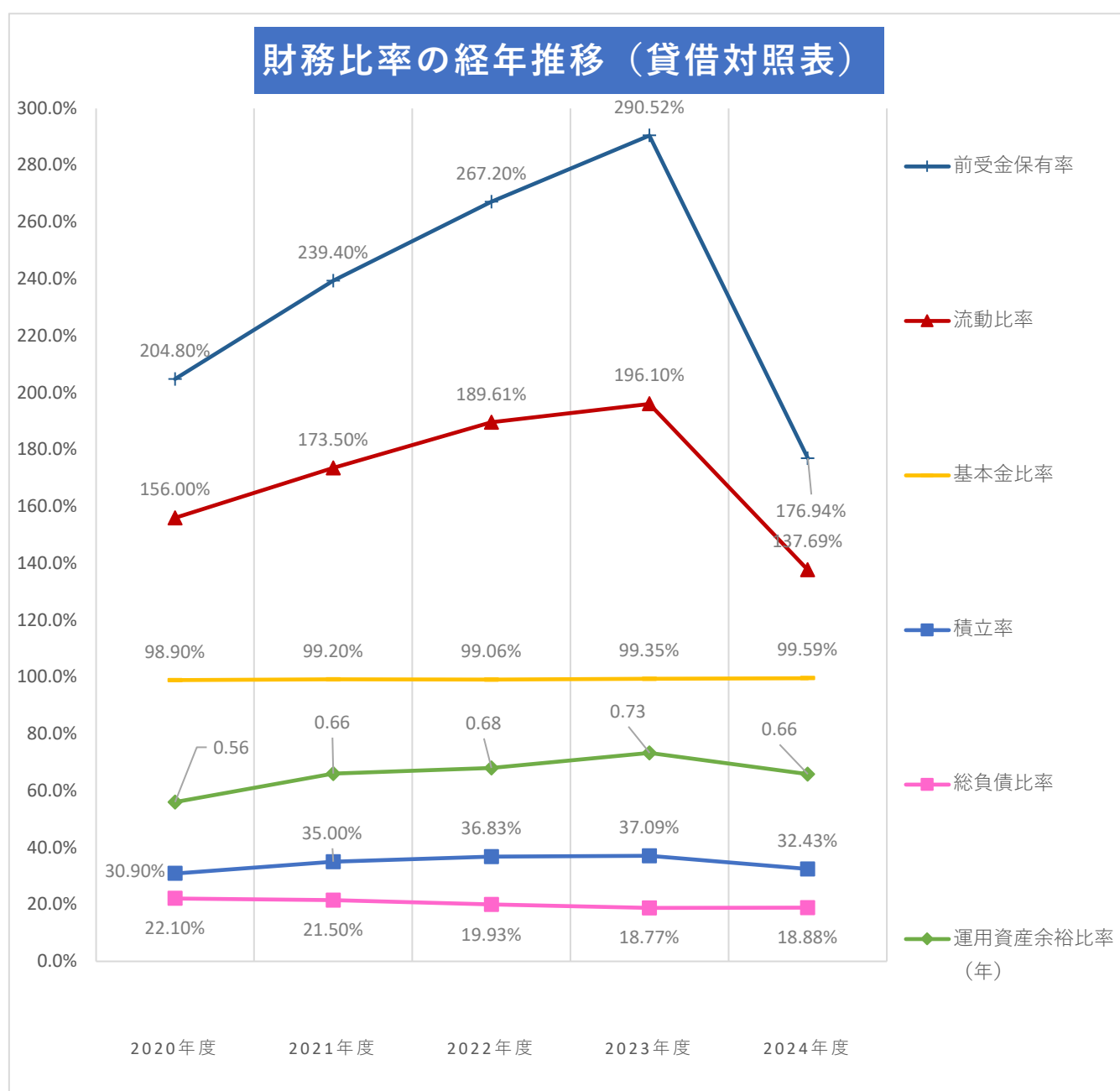


(3) 貸借対照表の比率

(単位：％)

比率名	算出方法	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
運用資産余裕比率（年）	$\frac{\text{運用資産} - \text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	0.56	0.66	0.68	0.73	0.66
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	156.00%	173.50%	189.61%	196.10%	137.69%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	22.10%	21.50%	19.93%	18.77%	18.88%
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	204.80%	239.40%	267.20%	290.52%	176.94%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	98.90%	99.20%	99.06%	99.35%	99.59%
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額（※）}}$	30.90%	35.00%	36.83%	37.09%	32.43%

(※) 要積立額 = 減価償却累計額 + 退職給与引当金 + 第2号基本金 + 第3号基本金



[VI]データ集

1. 役員の概要

(1)理事の構成

定数 理事 14～15 人、監事 2 人(基準日：2025 年 3 月 31 日)

区 分	氏 名	常勤／非常勤の別 (※ 非業務執行役員)	任 期
理 事 長	井原 徹	常 勤	2019 年 1 月 20 日 理事就任 (2022 年 1 月 20 日 理事重任) 2022 年 1 月 21 日 理事長再任
理 事 (大学・短期大学学長)	小玉 重夫	常 勤	2024 年 4 月 1 日 理事就任
理 事 (大学子ども学部学部長)	倉澤 壽之	常 勤	2024 年 4 月 1 日 理事就任
理 事 (高等学校校長)	武内 彰	常 勤	2021 年 4 月 1 日 理事就任
理 事 (中学校校長)	南 和男	常 勤	2024 年 4 月 1 日 理事就任
理 事 (法人事務局長)	舟橋 徹	常 勤	2023 年 7 月 1 日 理事就任
理 事 (幼稚園園長)	本山 方子	常 勤	2022 年 1 月 20 日 理事就任
理 事 (高等学校副校長)	兼清 信生	常 勤	2016 年 1 月 20 日 理事就任 (2022 年 1 月 20 日 理事重任)
理 事	樋口 秋夫	非常勤(※)	2022 年 1 月 20 日 理事就任
理 事	増田 昭一	非常勤(※)	2016 年 1 月 20 日 理事就任 (2022 年 1 月 20 日 理事重任)
理 事	長倉 澄	非常勤(※)	2007 年 11 月 13 日 理事就任 (2022 年 1 月 20 日 理事重任)
理 事	昼間 守仁	非常勤(※)	2022 年 1 月 20 日 理事就任
理 事	西井 泰彦	非常勤(※)	2016 年 1 月 20 日 理事就任 (2022 年 1 月 20 日 理事重任)
理 事	細江 卓朗	非常勤(※)	2016 年 1 月 20 日 理事就任 (2022 年 1 月 20 日 理事重任)
理 事	牧野 光昭	非常勤(※)	2019 年 7 月 1 日 理事就任 (2022 年 1 月 20 日 理事重任)
監 事	池田 勝	非常勤(※)	2019 年 1 月 20 日 監事就任 (2022 年 1 月 22 日 監事重任)
監 事	金子 武弘	非常勤(※)	2012 年 3 月 13 日 監事就任 (2022 年 1 月 22 日 監事重任)

(2) 2025 年 3 月 31 日までの役員の異動状況

教職員の退職・異動に伴い、下記の変更があった。

	(新)			(旧)		
区分	氏 名	変更	日付	氏 名	変更	日付
理事(大学・短期大学学長)	小玉 重夫	就任	2024年4月1日	高田 文子	退任	2024年3月31日
理事(大学子ども学部学部長)	倉澤 壽之	就任	2024年4月1日	福丸 由佳	退任	2024年3月31日
理事 (中学校校長)	南 和男	就任	2024年4月1日	山田 裕	退任	2024年3月31日

(3) 責任限定契約、役員賠償責任保険契約の状況

①私立学校法及び寄附行為（2024 年 4 月 1 日施行）第 46 条に基づき、対象となる非業務執行役員と責任限定契約（任期中有効、再任後も効力を有する）を締結した。2025 年 3 月 31 日現在の対象役員は 9 名。

※学校法人白梅学園寄附行為（2024 年 4 月 1 日施行）より抜粋。

（責任限定契約）

第 46 条 理事（理事長、常務理事、業務を執行したその他の理事又はこの法人の職員でないものに限る。）又は監事（以下この条において「非業務執行理事等」という。）が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事等が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金 60 万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事等と締結することができる。

②私立学校法に基づき、2020 年 4 月より下記の役員賠償責任保険に加入した（2020 年 3 月 16 日理事会報告）。2024 年 1 月 29 日理事会の承認を得て、2024 年度も契約を継続した。

加入保険：私大協役員賠償責任保険制度（D&O マネジメントパッケージ）

（経営責任総合保障特約条項・特定危険負担保特約条項・会社有価証券賠償責任等不担保特約条項・役員の定義修正特約条項・追加保険料の払込猶予に関する特約条項付帯 会社役員賠償責任保険）

契約期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 4 月 1 日

補償対象(被保険者)：本学園及び本学園役員個人

年間保険料：266,000 円

保険期間中総支払限度額：10 億円

2. 評議員の概要

(1) 評議員の構成

定数 評議員 29～31 人(基準日：2025 年 3 月 31 日)

氏 名	区分	氏 名	区分
小玉 重夫	大学・短期大学学長	増田 昭一	卒業生で 25 歳以上のものから 各同窓会の推薦を経た者
倉澤 壽之	大学子ども学部学部長	日景 高明	卒業生で 25 歳以上のものから 各同窓会の推薦を経た者
武内 彰	高等学校校長	遠藤 源太郎	卒業生で 25 歳以上のものから 各同窓会の推薦を経た者
南 和男	中学校校長	町田 晴美	卒業生で 25 歳以上のものから 各同窓会の推薦を経た者
本山 方子	幼稚園園長	大迫 和子	卒業生で 25 歳以上のものから 各同窓会の推薦を経た者
舟橋 徹	法人事務局長	山口 洋子	卒業生で 25 歳以上のものから 各同窓会の推薦を経た者
高田 文子	大学及び短期大学教授会の推 薦する教員	白川 恭子	法人に関係のある学識経験者
福丸 由佳	大学及び短期大学教授会の推 薦する教員	中島 百合子	法人に関係のある学識経験者
安形 元伸	大学及び短期大学教授会の推 薦する教員	長 明美	法人に関係のある学識経験者
須川 公央	大学及び短期大学教授会の推 薦する教員	井関 浩樹	法人に関係のある学識経験者
兼清 信生	高等学校副校長	木村 修三	法人に関係のある学識経験者
鈴木 邦夫	中学校副校長	根本 和彦	法人に関係のある学識経験者
細井 俊克	中学校及び高等学校教員の推 薦する教員	田原 三保子	法人に関係のある学識経験者
昼間 史	その他の教職員の推薦する教 職員	山路 憲夫	法人に関係のある学識経験者
仙波 良太郎	その他の教職員の推薦する教 職員	須藤 勉	法人に関係のある学識経験者
		樋口 秋夫	法人に関係のある学識経験者

(2) 2025 年 3 月 31 日までの評議員の異動状況

教職員の退職・異動に伴い、下記の変更があった。

	(新)			(旧)		
区分	氏 名	変更	日付	氏 名	変更	日付
大学・短期大学学長	小玉 重夫	就任	2024年4月1日	高田 文子	退任	2024年3月31日
大学子ども学部 学部長	倉澤 壽之	就任	2024年4月1日	福丸 由佳	退任	2024年3月31日
中学校校長	南 和男	就任	2024年4月1日	山田 裕	退任	2024年3月31日
大学及び短期大学 教授会の推薦する 教員	高田 文子	就任	2024年4月1日	倉澤 壽之	退任	2024年3月31日
大学及び短期大学 教授会の推薦する 教員	福丸 由佳	就任	2024年4月1日	小林 美由紀	退任	2024年3月31日
卒業生で25歳以上 のものから各同窓会 の推薦を経た者	日景 高明	就任	2024年6月24日	坂本 勝恵	退任	2024年5月1日
大学及び短期大学 教授会の推薦する 教員	安形 元伸	就任	2025年3月25日	廣澤 満之	退任	2025年3月24日

3. 2024 年度理事会・評議員会の開催状況

(1) 理事会・評議員会

(2024年度開催回数 理事会 9 回、評議員会 4 回)

理事会	評議員会
① 2024年 5 月 27 日 (月)	① 2024年 5 月 27 日 (月)
② 6 月 24 日 (月)	② 11 月 57 日 (月)
③ 7 月 22 日 (月)	③ 2025年 1 月 27 日 (月)
④ 9 月 30 日 (月)	④ 3 月 24 日 (月)
⑤ 10 月 28 日 (月)	
⑥ 11 月 25 日 (月)	
⑦ 2025年 1 月 27 日 (月)	
⑧ 2 月 17 日 (月)	
⑨ 3 月 24 日 (月)	

(2) 常勤理事会

(2024年度開催回数 常勤理事会14回)

常勤理事会			
① 2024年 4 月 8 日 (月)	⑧ 10 月 15 日 (火)		
② 4 月 22 日 (月)	⑨ 11 月 11 日 (月)		
③ 5 月 13 日 (月)	⑩ 12 月 9 日 (月)		
④ 6 月 10 日 (月)	⑪ 12 月 23 日 (月)		
⑤ 7 月 1 日 (月)	⑫ 2025年 1 月 14 日 (火)		
⑥ 8 月 5 日 (月)	⑬ 2 月 3 日 (月)		
⑦ 9 月 9 日 (月)	⑭ 3 月 3 日 (月)		

4. 教職員の概要（専任教職員数）

職種	2023年度 (2023年4月1日)	2024年度 (2024年4月1日)	前年度差	備考
大学教員	43	43	0	大学院含む
短大教員	10	11	1	
高校教諭	56	55	-1	
中学校教諭	12	13	1	
幼稚園教諭	10	10	0	
事務職員	46	48	2	
計	177	180	3	

5. 2024 年度進路状況

(1) 白梅学園大学・短期大学

【大学子ども学部子ども学科】

学科	卒業 予定 者数 A	希望 進路	就 職								
			種別	希望者 B	決定者数				内定・ 決定率 G=C/B*100	内定・ 決定率 ※一時的 除く G=(D+E)/B *100	前年度 同月 内定率
					C=D+E+F	無期雇用 正規採用 D	有期雇用 非正規 E	一時的 F			
子ども 学科	131	就 職	公務	行政・一般職	0	0	-	-	-	-	100.0
				福祉職	9	9	9		100.0	100.0	100.0
				小計	9	9	9	0	100.0	100.0	100.0
			保・幼	公立保育園	34	34	34		100.0	100.0	97.6
				私立保育園	39	39	38	0	100.0	100.0	97.6
				公立幼稚園・こども園	1	1	1		100.0	100.0	-
				私立幼稚園	14	14	14		100.0	100.0	100.0
				私立認定こども園	4	4	4		100.0	100.0	100.0
				小計	92	92	91	0	100.0	100.0	97.9
			施設	公立施設	0	0	-	-	-	-	100.0
				準公立施設	0	0	-	-	-	-	100.0
				私立施設	11	11	11		100.0	100.0	100.0
				小計	11	11	11	0	100.0	100.0	100.0
			小学	公立小学校	11	11	9	2	100.0	100.0	100.0
				公立特別支援学校	1	1	1		-	-	100.0
				小計	12	12	10	2	100.0	100.0	100.0
			企業		3	3	2	0	100.0	100.0	100.0
			就職希望者 計		127	127	123	2	100.0	100.0	98.7
			進 学		2	2			100.0	100.0	-
			希望なし		2	2			100.0	100.0	100.0
			未定・未提出		0	0			-	-	-

※9月卒業者(1名)含む

【大学子ども学部発達臨床学科】

学科	卒業 予定 者数 A	希望 進路	就 職								
			種別		希望者 B	決定者数			内定・ 決定率 G=C/B*100	内定・ 決定率 ※一時的 除く G=(D+E)/B *100	前年度 同月 内定率
						無期雇用 正規採用 D	有期雇用 非正規 E	一時的 F			
発達臨床 学科	47	就 職	公務	行政・一般職	0	0	-	-	-	-	-
				福祉職	2	2	2		100.0	100.0	100.0
				小計	2	2	2	0	100.0	100.0	100.0
			保・幼	公立保育園	6	6	6		100.0	100.0	100.0
				私立保育園	8	8	7	1	100.0	100.0	100.0
				公立幼稚園・こども園	2	2	2		100.0	100.0	-
				私立幼稚園	3	3	3		100.0	100.0	100.0
				私立認定こども園	1	1	0	0	1	100.0	-
				小計	20	20	18	1	100.0	100.0	100.0
			施設	公立施設	0	0	-	-	-	-	100.0
				準公立施設	0	0	-	-	-	-	-
				私立施設	8	8	8		100.0	100.0	100.0
				小計	8	8	8	0	100.0	100.0	100.0
			小学	公立小学校	0	0	-	-	-	-	100.0
				公立特別支援学校	6	6	6		100.0	100.0	100.0
				小計	6	6	6	0	100.0	100.0	100.0
			企業		7	7	7		100.0	100.0	100.0
			就職希望者 計		43	43	41	1	100.0	100.0	100.0
			進 学		2	2			100.0	100.0	100.0
			希望なし		2	2			100.0	100.0	-
			未定・未提出		0	0			-	-	-

【大学子ども学部家族・地域支援学科】

学科	卒業 予定 者数 A	希望 進路	就 職									
			種別		希望者 B	決定者数				内定・ 決定率 G=C/B*100	内定・ 決定率 ※一時的 除く G=(D+E)/B *100	前年度 同月 内定率
						無期雇用 正規採用 D C=D+E+F	有期雇用 非正規 E	一時的 F				
家族・ 地域支援 学科	40	就 職	公務	行政・一般職	0	0	—	—	—	—	—	—
				福祉職	1	1	1			100.0	100.0	100.0
				小計	1	1	1	0	0	100.0	100.0	100.0
			保	公立保育園	0	0	—	—	—	—	—	—
				私立保育園	1	1	1			100.0	100.0	0.0
				小計	1	1	1	0	0	100.0	100.0	—
			施設	公立施設	1	1	0	0	1	100.0	100.0	100.0
				準公立施設	1	1	1			100.0	100.0	—
				私立施設	29	28	25	0	3	96.6	96.6	91.7
				小計	31	30	26	0	4	96.8	96.8	92.3
			小学	公立小学校	3	3	2	1		100.0	100.0	100.0
			企業		4	4	3	1		100.0	100.0	100.0
			就職希望者 計		40	39	33	2	4	97.5	97.2	94.7
			進 学		0	0				0.0	0.0	—
			希望なし		0	0				0.0	0.0	100.0
			未定・未提出		0	0				—	—	—

※子ども学部子ども心理学科、教育学科は2024年4月新設のため2024年度卒業生なし

【短期大学保育科】

学科	卒業 予定 者数 A	希望 進路	就 職										
			種別		希望者 B	決定者数			内定・ 決定率 G=C/ B *100	内定・ 決定率 ※一時的除 く G= (D+E) / B *100	前年度 同月 内定率		
						無期雇用 正規採用 C=D+E+F	有期雇用 非正規 D	一時的 E				F	
保育科	77	就 職	公務（行政・一般職）		0	0	－	－	－	－	－	－	
			保・幼	公立保育園		4	4	4			100.0	100.0	100.0
				私立保育園		39	39	39			100.0	100.0	97.8
				公立幼稚園		0	0	－	－	－	－	－	－
				私立幼稚園		7	7	7			100.0	100.0	100.0
				私立認定こども園		6	6	6			100.0	100.0	100.0
				小計		56	56	56	0	0	100.0	100.0	98.4
			施設	公立施設		0	0	－	－	－	－	－	－
				私立施設		7	7	6	1		100.0	100.0	100.0
				小計		7	7	6	1	0	100.0	100.0	100.0
			企業等		1	1	1			100.0	100.0	100.0	
			就職希望者 計		64	64	63	1	0	100.0	100.0	98.6	
			進 学		13	12				92.3	－	100.0	
			希望なし		0	0				－	－		
			未定・未提出		0	0				－	－		

(2) 白梅学園高等学校

【2024年度進路実績】

	指定校 推薦	公募制 推薦	総合型 選抜	一般 選抜	計	%
四年制大学	107	7	63	56	233	83.8%
他大学	74	7	62	56	199	(71.6%)
白梅学園大学	33		1		34	(12.2%)
子ども	24		1		25	(9.0%)
家族・地域支援					0	(0.0%)
子ども心理	4				4	(1.4%)
教育	5				5	(1.8%)
短期大学	11		6		17	6.1%
他短大			3		3	(1.1%)
白梅学園短期大学	11		3		14	(5.0%)
専門学校	6	1	11	2	20	7.2%
就職					0	0.0%
浪人					7	2.5%
家事従事・留学 等					1	0.4%

(3) 白梅学園清修中学校・中高一貫部

【2024年度進路実績】

	指定校	公募 推薦	自己 推薦	一般 受験	総合型 選抜	計	%
四年制大学	1	1	0	6	6	14	82.4%
短期大学	0	0	0	0	0	0	0.0%
専門学校	0	0	0	0	1	1	5.9%
就職	0	0	0	0	0	0	0.0%
浪人						2	11.8%
留学等						0	0.0%